

Ⅱ 結果の内容

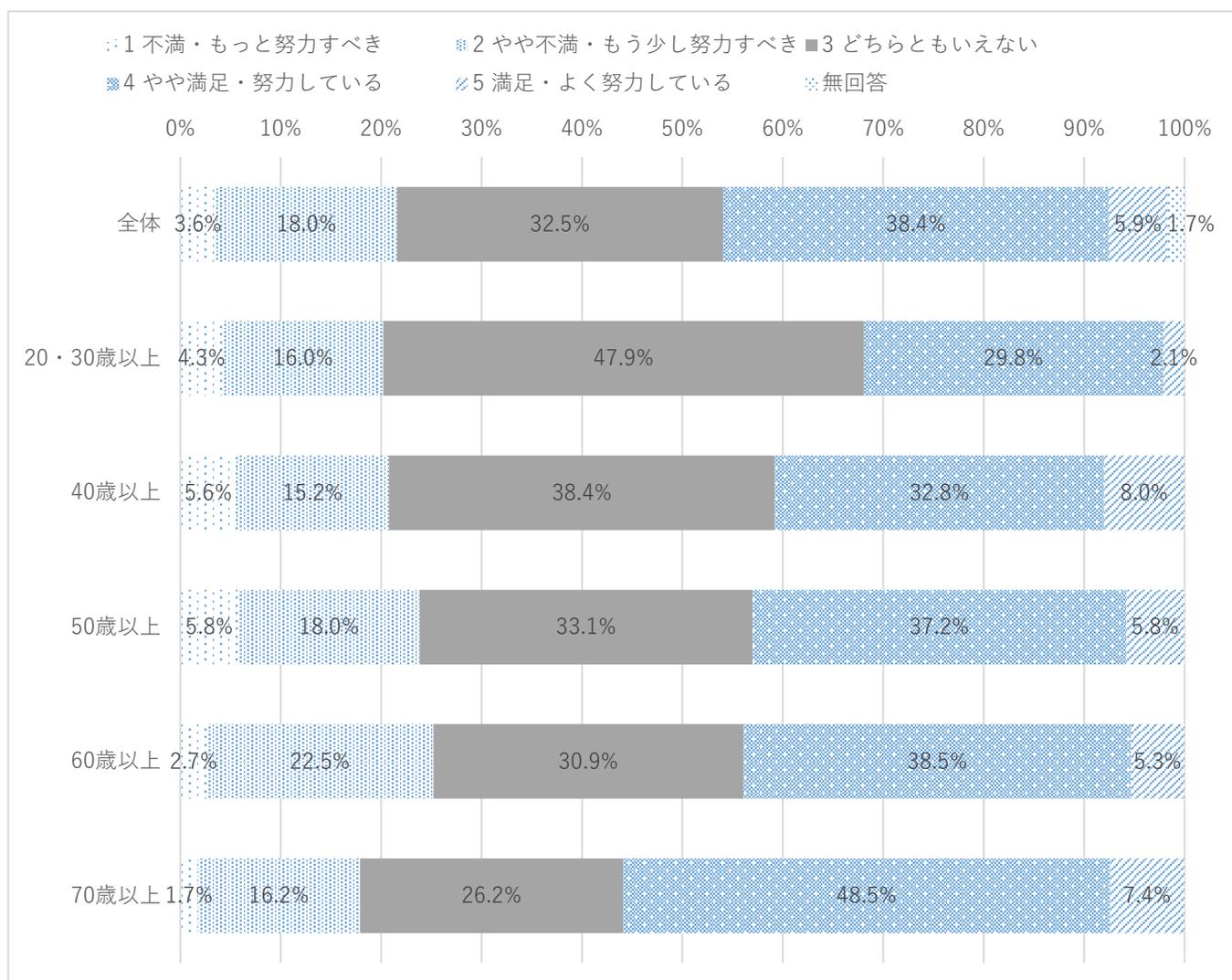
《アフターコロナを見据えた県の行政・財政運営に関する県民満足度調査について》

＜県の行っている行政サービス全般についての満足度＞
 「満足・努力している」、「やや満足・努力している」が全体の4割超

問1 県の行っている行政サービス全般について、あなたはどれくらい満足していますか。
 (〇は1つ)

	n=899	回答数 (人)	割合 (%)
不満・もっと努力すべき		32	3.6%
やや不満・もう少し努力すべき		162	18.0%
どちらともいえない		292	32.5%
やや満足・努力している		345	38.4%
満足・よく努力している		53	5.9%
無回答		15	1.7%

- 「満足・努力している」、「やや満足・努力している」(=満足層)が44.3%
- 「不満・もっと努力すべき」、「やや不満・もう少し努力すべき」(=不満足層)が21.6%
- 年代別では、年代が上がるにつれて満足層が高くなる傾向にある。

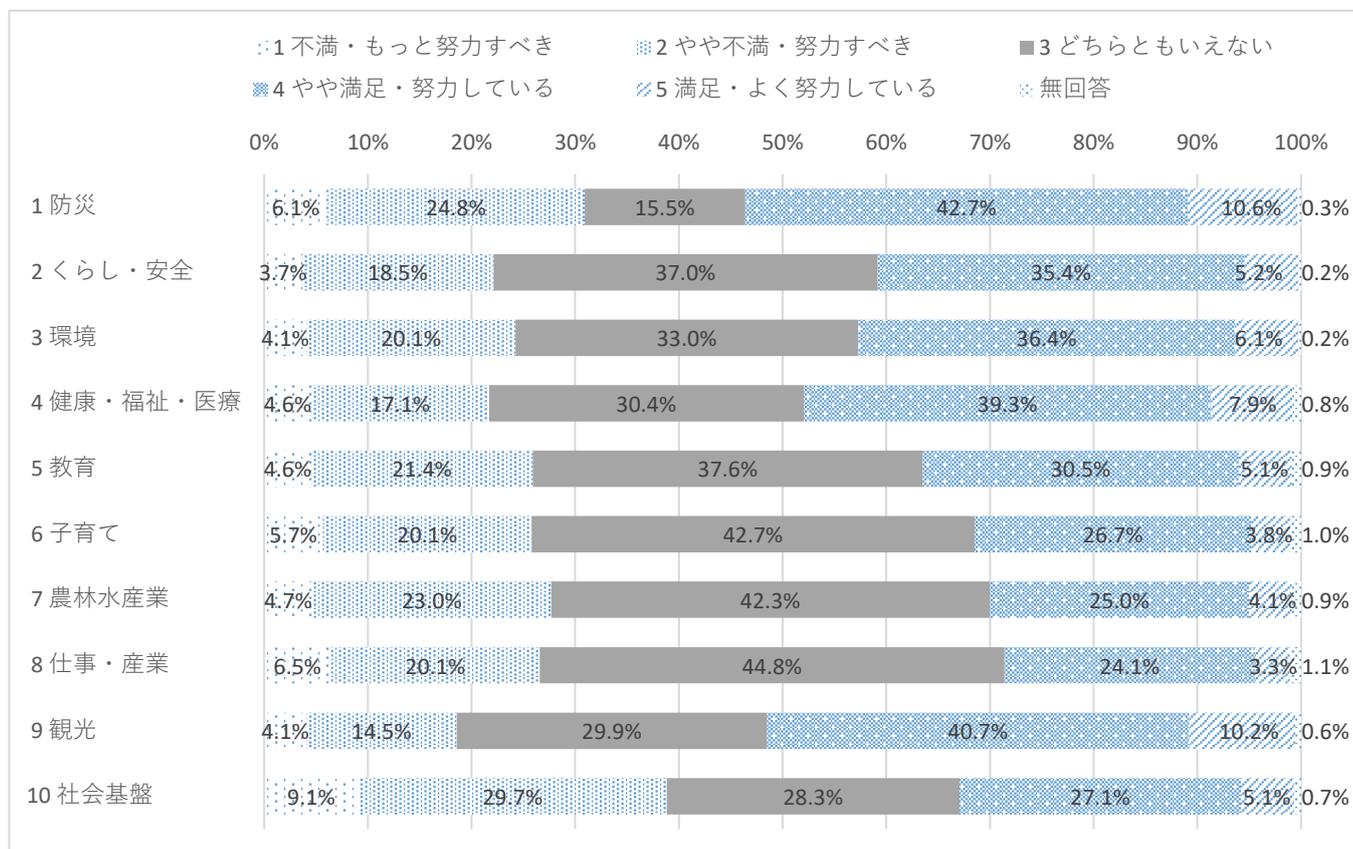


<県の行っている行政サービス(分野別)についての満足度>
 満足層は、「1 防災」で5割超(53.3%)、「9 観光」で約5割(50.9%)

問2 県の行っている以下の分野の行政サービスについて、それぞれ満足度を教えてください。

n=899、以下の表は割合(%)						
	1 不満・ もっと努力 すべき	2 やや不 満・もう少し 努力すべ き	3 どちらと もいえない	4 やや満 足・努力し ている	5 満足・よく 努力してい る	無回答
1 防災	6.1%	24.8%	15.5%	42.7%	10.6%	0.3%
2 暮らし・安全	3.7%	18.5%	37.0%	35.4%	5.2%	0.2%
3 環境	4.1%	20.1%	33.0%	36.4%	6.1%	0.2%
4 健康・福祉・医療	4.6%	17.1%	30.4%	39.3%	7.9%	0.8%
5 教育	4.6%	21.4%	37.6%	30.5%	5.1%	0.9%
6 子育て	5.7%	20.1%	42.7%	26.7%	3.8%	1.0%
7 農林水産業	4.7%	23.0%	42.3%	25.0%	4.1%	0.9%
8 仕事・産業	6.5%	20.1%	44.8%	24.1%	3.3%	1.1%
9 観光	4.1%	14.5%	29.9%	40.7%	10.2%	0.6%
10 社会基盤	9.1%	29.7%	28.3%	27.1%	5.1%	0.7%

- 「1 防災」、「9 観光」で満足層の回答が高い傾向にある。(防災：53.3%、観光：50.9%)
 一方で、「1 防災」は、不満層も30.9%と高い。
 「10 社会基盤」については、不満層が38.8%と唯一、不満層が満足層より高くなった。



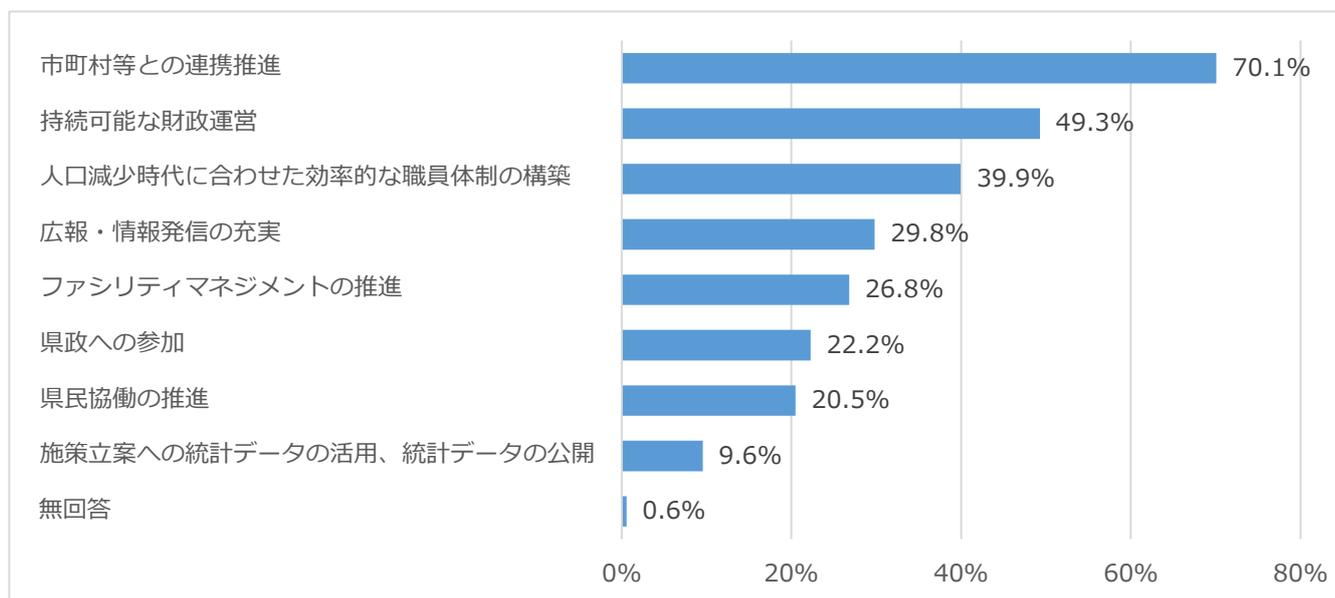
《アフターコロナを見据えた県の行政・財政運営に関する県民満足度調査について》

＜現在の取組のうち、今後も重点的に取り組むべきだと思うもの＞
 「3 市町村との連携推進」が最も多く回答された。(約7割)

問3 県では、行政サービスの質の向上に向け、行政経営方針に基づき、行政・財政改革に取り組んでいます。現在取り組んでいる以下の取組について、今後も取り組んでいくべきだと思うものを選んでください。(〇は3つまで)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=899		
市町村等との連携推進(災害対応、観光振興など広域的課題における国、他県、市町村等との連携)	630	70.1%
持続可能な財政運営(税込・新たな歳入の確保、重要施策・課題への予算の重点化、行政コストの公表など財政の「見える化」)	443	49.3%
人口減少時代に合わせた効率的な職員体制の構築	359	39.9%
広報・情報発信の充実(SNSやチャットを活用した様々な媒体による県行政の取組や長野県の魅力の効果的な発信、見やすくわかりやすいホームページづくり)	268	29.8%
ファシリティマネジメントの推進(県有財産の総量縮小、県有財産の効率的利用、県有施設の長寿命化・維持管理の適正化)	241	26.8%
県政への参加(施策の企画立案や事業実施における県民や関係者の意見の把握と県政への反映)	200	22.2%
県民協働の推進(県民、NPO、企業など多様な主体との協働の推進)	184	20.5%
施策立案への統計データの活用、県が保有する統計データの公開(オープンデータ化)	86	9.6%
無回答	5	0.6%

●今後も重点的に取り組んでいくべきだと思うものとしては、「市町村との連携推進」が最も多く回答され(70.1%)、次いで、「持続可能な財政運営」(49.3%)、「人口減少時代に合わせた効率的な職員体制の構築」(39.9%)となった。



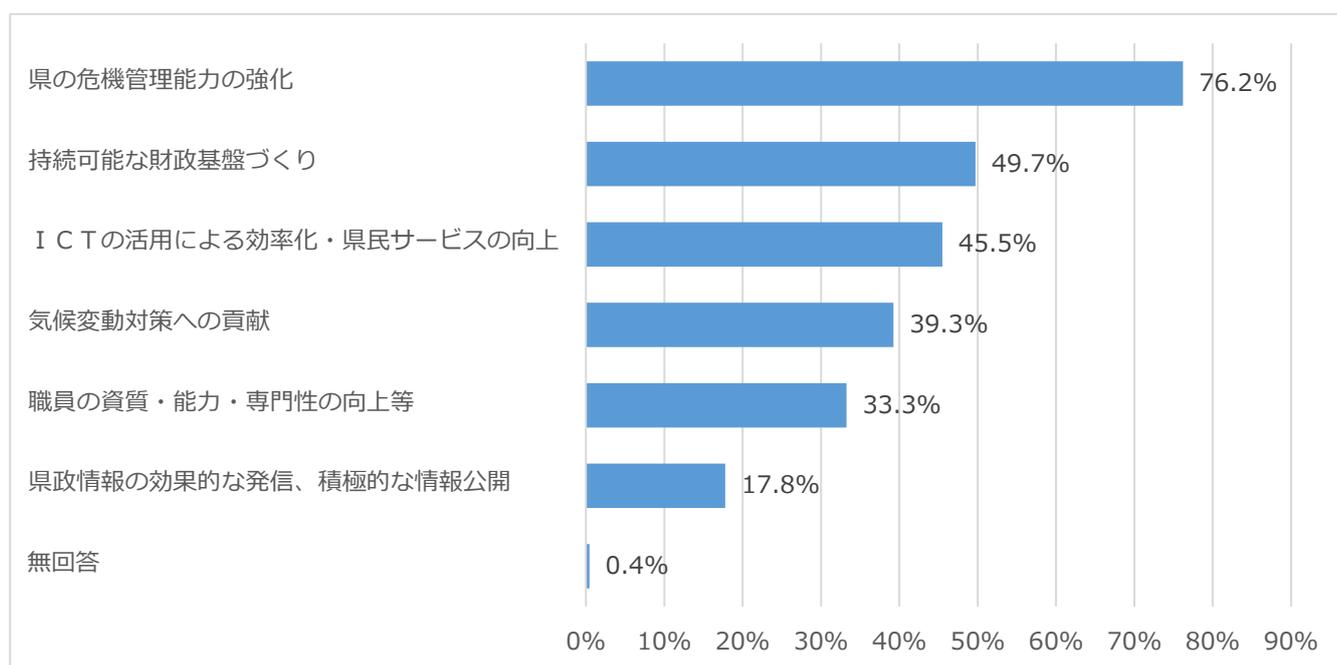
《アフターコロナを見据えた県の行政・財政運営に関する県民満足度調査について》

＜今後の行財政改革で、重点的に取り組むべきだと思うもの＞
「5 県の危機管理能力の強化」が最も多く回答された。(8割弱)

問4 県では、社会情勢の急速な変化に伴う新たな行政課題に対応していくため、新たな行政・財政改革に取り組もうとしています。今後の行政・財政改革では、どのような分野を重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

	回答数 (人)	割合 (%)
県の危機管理能力の強化(大規模災害や新型コロナ等の危機事象への対応等)	685	76.2%
持続可能な財政基盤づくり(徹底した事務事業の見直しや歳出削減・歳入確保等)	447	49.7%
ICTの活用による効率化・県民サービスの向上(行政手続のオンライン化、AI(人工知能)・RPAの活用による仕事の減量化・業務効率化、県税・県有施設におけるキャッシュレス決済の拡大等)	409	45.5%
気候変動対策への貢献(持続可能な脱炭素(ゼロカーボン)社会づくり)	353	39.3%
職員の資質・能力・専門性の向上、学ぶ姿勢への意識改革	299	33.3%
県政情報の効果的な発信、積極的な情報公開(SNSやチャットの積極的・有効活用等)	160	17.8%
無回答	4	0.4%

●今後、重点的に取り組んでいくべき分野を3つ回答してもらったところ、「県の危機管理能力の強化」が最も多く回答され(76.2%)、次いで、「持続可能な財政基盤づくり」(49.7%)、「ICTの活用による効率化・県民サービスの向上」(45.5%)と続いた。



《アフターコロナを見据えた県の行政・財政運営に関する県民満足度調査について》

＜今後の長野県の目指すべき姿・方向についてのご意見＞
899人の回答者のうち、365人からご意見をいただいた。（約4割）

問5 今後の長野県の目指すべき姿・方向についてご意見がありましたらおきかせください。

	回答数 (人)	割合 (%)
意見数	365	40.6%

回答した県政モニター899人中、365人から意見があった。
主な意見は以下のとおり（抜粋）。

- 異常気象に伴う災害の頻発化・大規模化に対応したインフラの整備、気候変動対策、防災・避難情報をわかりやすく伝える工夫が必要。
- コロナ禍などで先が見えない時代、県職員は前例踏襲にならず、柔軟な発想で市町村やNPO等と連携・協働し、先見性を持って業務にあたるべき。また、職員の専門性向上や多様な経験が得られるように効果的な研修を実施すべき。
- 行政のデジタル化について、届出や各種申請を役所に行かずに完結することができる「行政サービスのオンライン化」やどの市町村でも一定水準以上の行政サービスが受けられるようにすべき。
- スマートフォン、パソコンなどが苦手な方でも安心して行政サービスを受け、必要な情報が取得できるような配慮が必要。
- 人口が減少する中、若者や子どもたちが長野県に住み続けたいと思えるよう子育て支援策や教育の充実が必要。
- 「長野県らしさ」を全面に出したPRや支援制度により、移住者や交流人口を増やす取組が必要。
- 長野県にある自然環境や歴史的景観の保護、さらなるPR、周辺環境の整備。

また、県が行っている施策や事業について、「ほとんど知らない」、「わからない」、「興味関心が持てない」といった「県政との距離」を指摘する声が一定数あり、多くの県民が県政に興味・関心が持てるように県政情報の効果的な発信・広報を望む声があった。また、施策や事業の実施後に成果や効果の検証・公表（アフターフォロー）がより足りていないとする声があった。

《自殺対策について》

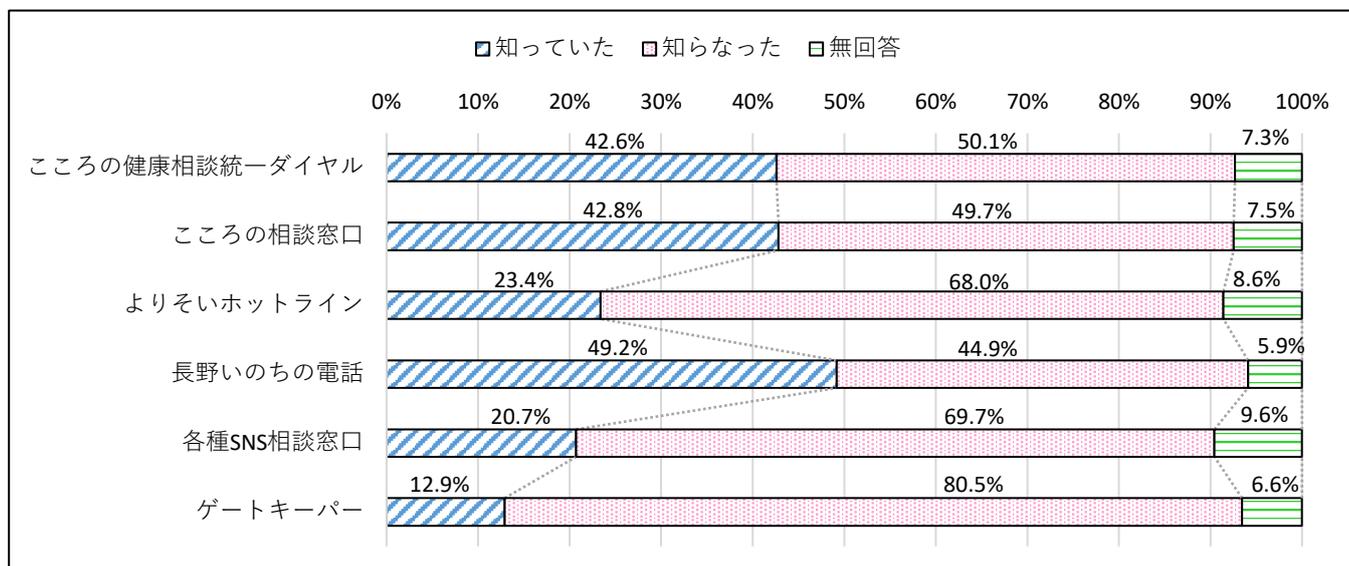
＜自殺対策に関する相談窓口の認知度＞

「いのちの電話」の認知度は約5割、「こころの健康相談統一ダイヤル」「こころの相談窓口」は4割超

問6 自殺対策に関する以下の事柄について知っていましたか。次のそれぞれの項目について、該当するもの1つだけに○をつけてください。(○はひとつずつ)

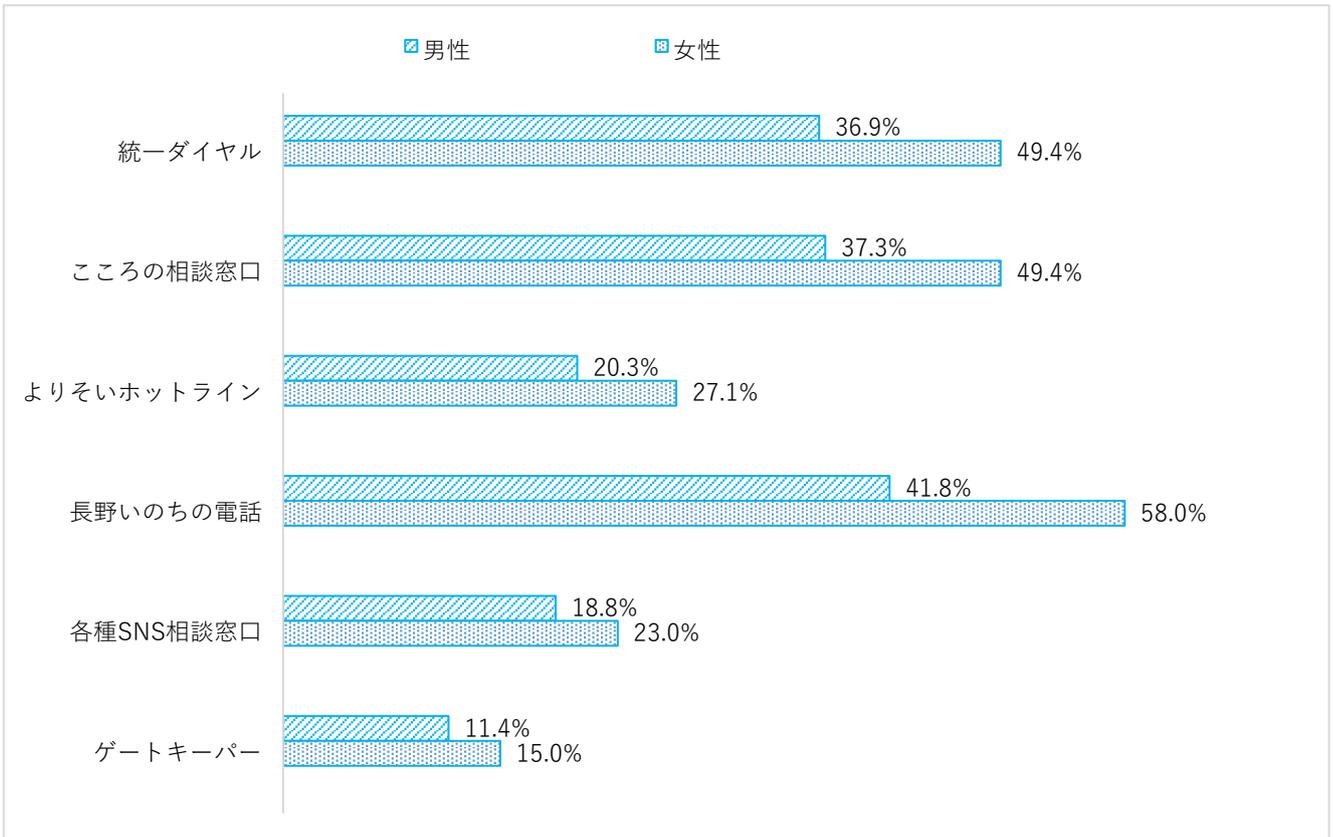
		n=899	回答数 (人)	割合 (%)
こころの健康 相談統一 ダイヤル	知っていた		383	42.6
	知らなかった		450	50.1
	無回答		66	7.3
こころの相談 窓口	知っていた		385	42.8
	知らなかった		447	49.7
	無回答		67	7.5
よりそいホット ライン	知っていた		210	23.4
	知らなかった		612	68.0
	無回答		77	8.6
長野いのちの 電話	知っていた		442	49.2
	知らなかった		404	44.9
	無回答		53	5.9
各種SNS相談 窓口	知っていた		186	20.7
	知らなかった		627	69.7
	無回答		86	9.6
ゲートキー パー	知っていた		116	12.9
	知らなかった		724	80.5
	無回答		59	6.6

●「いのちの電話」は49.2%、「こころの相談窓口」は42.8%、「こころの健康相談統一ダイヤル」は42.6%の認知度があるが、「ゲートキーパー」の認知度が12.9%と低い。



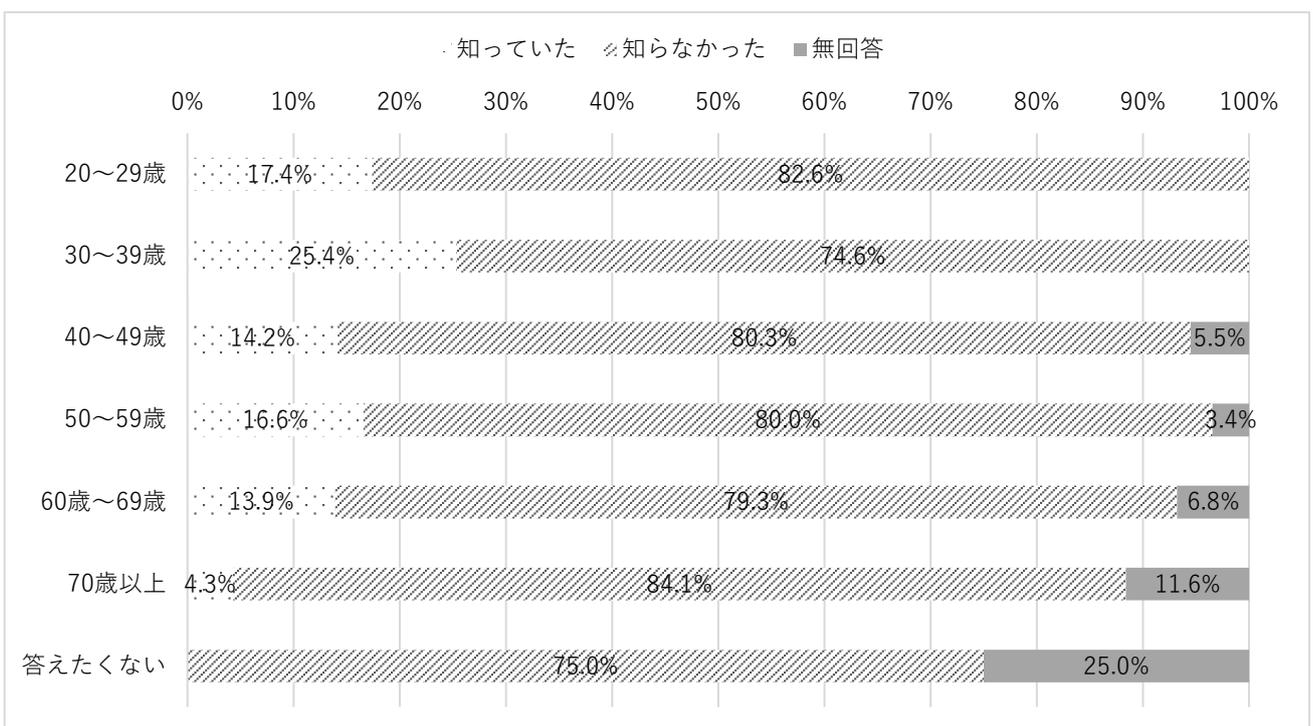
各相談窓口の認知度の男女別の割合

●全ての相談窓口において、女性に比べて男性の認知度が低い傾向がある。



最も認知度が低かった「ゲートキーパー」の年代別の割合

●30代が25.4%と最も高く、70代以上が4.3%と最も低い。



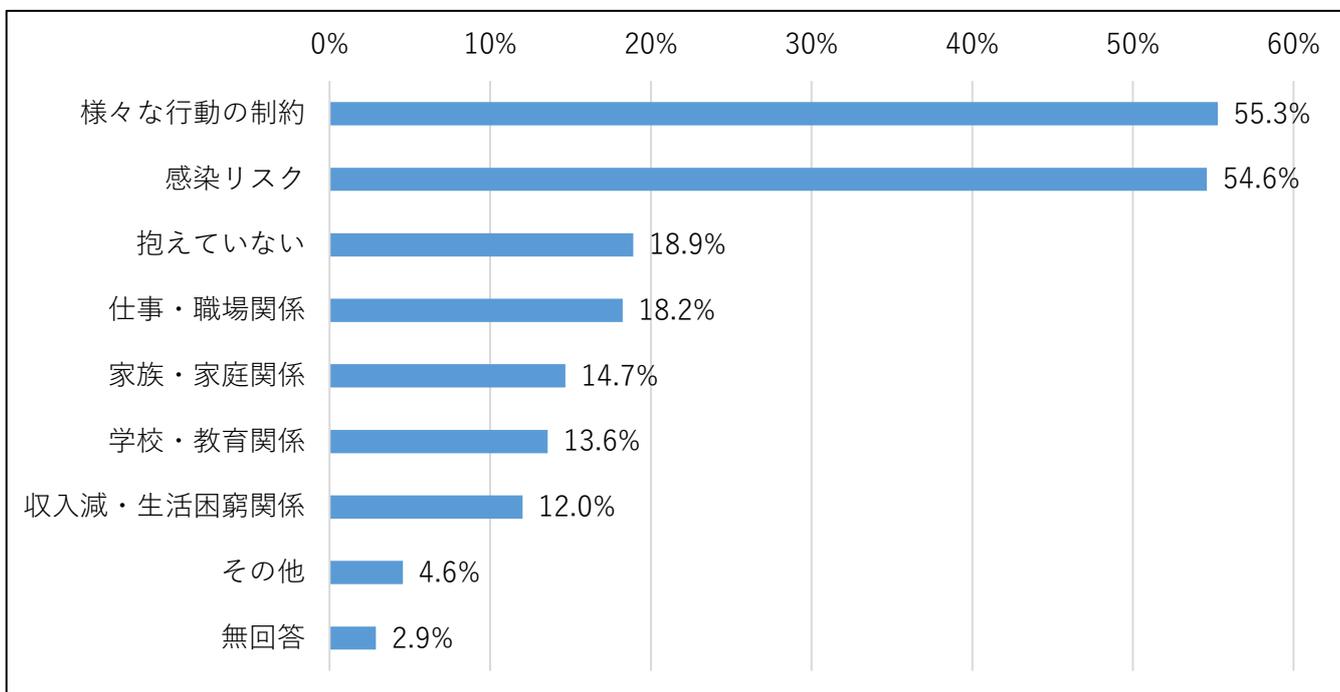
＜新型コロナウイルス感染症の影響で抱える悩みやストレス＞

行動制約や感染リスクがそれぞれ5割超となったが、悩みやストレスを抱えていない方も約2割いた。

問7-1 新型コロナウイルス感染症の影響で、悩みやストレスを抱えていますか。それはどのような悩みですか。以下のあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n=899	回答数 (人)	割合 (%)
様々な行動の制約		497	55.3%
感染リスク		491	54.6%
抱えていない		170	18.9%
仕事・職場関係		164	18.2%
家族・家庭関係		132	14.7%
学校・教育関係		122	13.6%
収入減・生活困窮関係		108	12.0%
その他		41	4.6%
無回答		26	2.9%

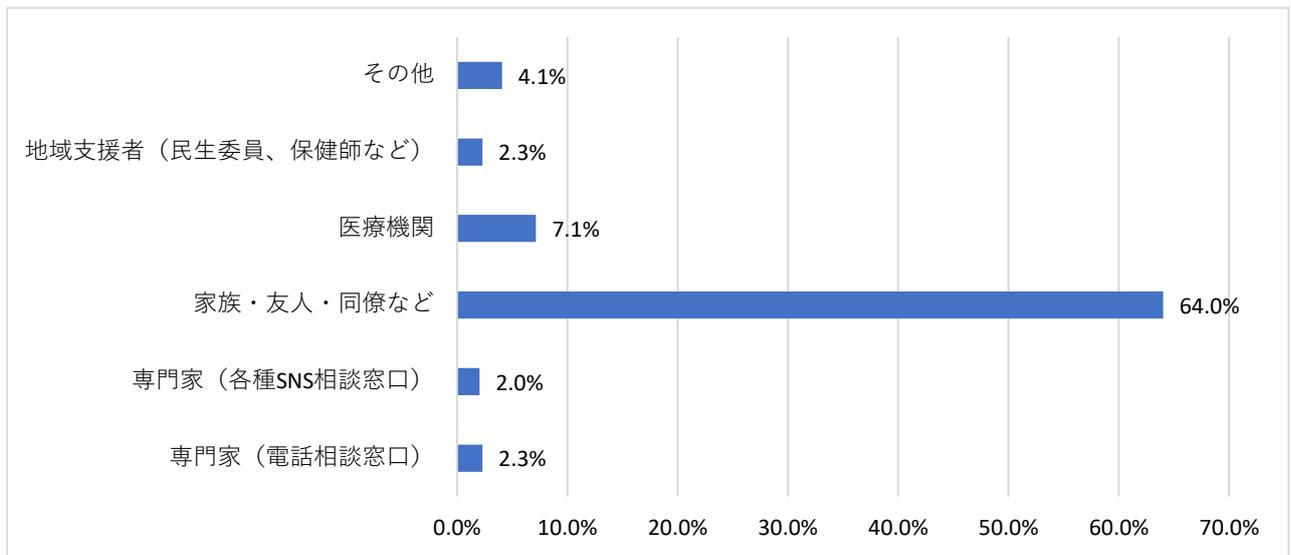
●「様々な行動の制約」が55.3%と最も多く、次に「感染リスク」(54.6%)となっているが、一方で悩みを「抱えていない」人が18.9%いた。



- 「家族・友人・同僚など」が64.0%と、相談先として突出して多い。

○問7-1で相談した場合の具体的な相談先

	n=392	回答数 (人)	割合 (%)
専門家(電話相談窓口)		9	2.3%
専門家(各種SNS相談窓口)		8	2.0%
家族・友人・同僚など		251	64.0%
医療機関		28	7.1%
地域支援者(民生委員、保健師など)		9	2.3%
その他		16	4.1%



＜新型コロナウイルス感染症の影響で抱える悩みやストレスの具体的な内容＞
 コロナの影響で様々な対応や制約が求められたことによるストレスが約4割

問7-2 問7-1で①～⑦を選択した方にお聞きします。悩みやストレスの具体的な内容をお聞かせください。

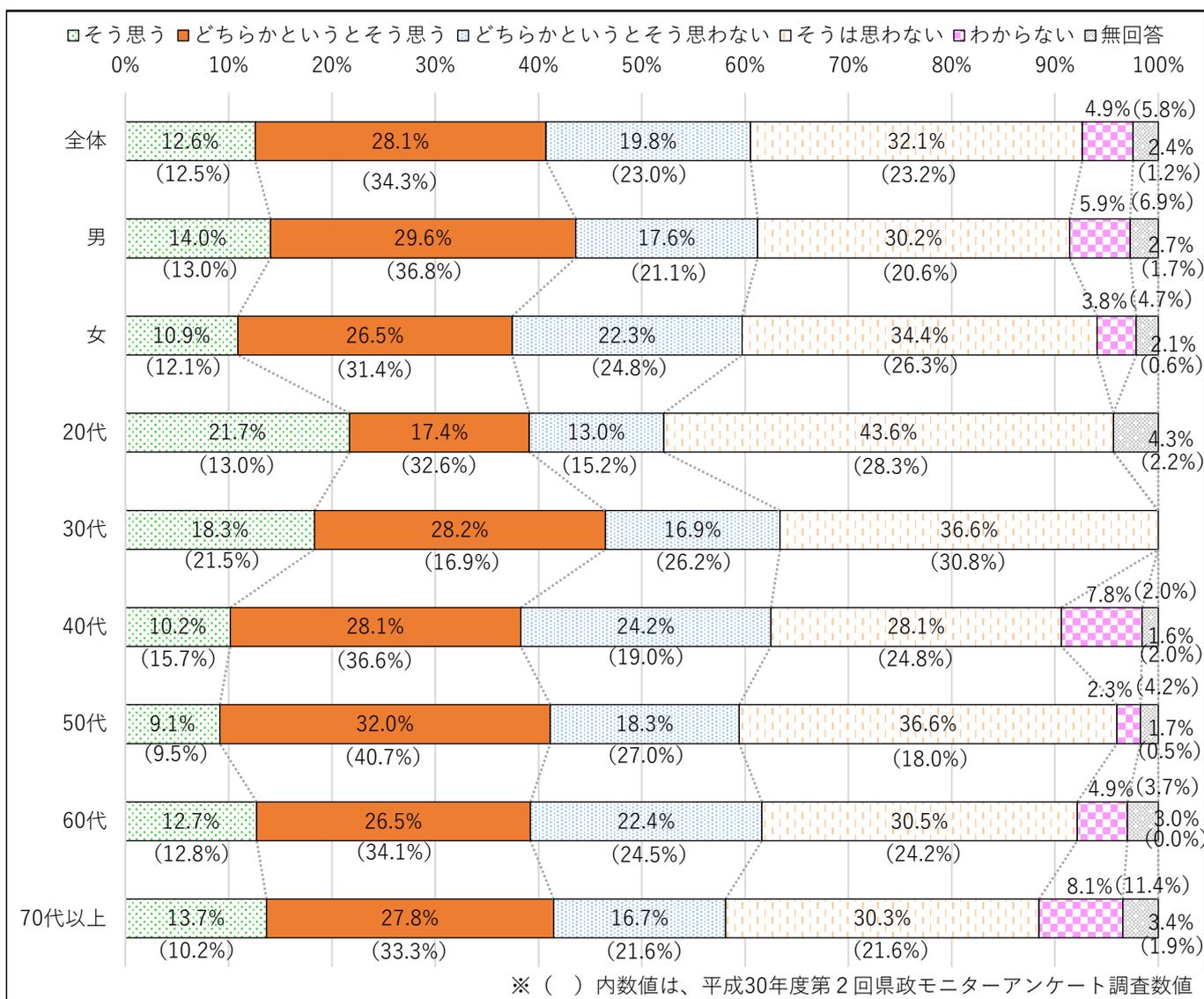
- その他及び主な具体的な悩みやストレスの内容は次のとおり。()内の数字は回答割合。
- コロナの影響で様々な対応や制約が求められストレスが増加 (43.6%)
- 自身や身近な人等が感染しないか、感染した場合の対応や誹謗中傷が心配 (18.2%)
- 仕事や収入・売上が(大幅に)減少・不安定または仕事がない (9.8%)
- 子どもの学校行事等の中止や普段の生活の変化による子どものころへの影響が心配 (5.3%)
- 家族、友人、同僚等との関わりやコミュニケーションの減少によるストレスの増加 (4.8%)
- ワクチン接種に係る様々な不安(効果、副反応、未接種への差別)など (3.9%)
- 県外や感染拡大地域からの訪問・来客が気がかり (3.7%)
- コロナ危機による漠然とした社会全体への不安、閉塞感 (3.7%)

<悩みの相談に対するためらい>
「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせると約4割

問8 悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。(〇はひとつ)

	R3年度 n=899		H30年度 n=1,008	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
そう思う	113	12.6%	126	12.5%
どちらかというと思う	253	28.1%	346	34.3%
どちらかというと思わない	178	19.8%	232	23.0%
そうは思わない	289	32.1%	234	23.2%
わからない	44	4.9%	58	5.8%
無回答	22	2.4%	12	1.2%

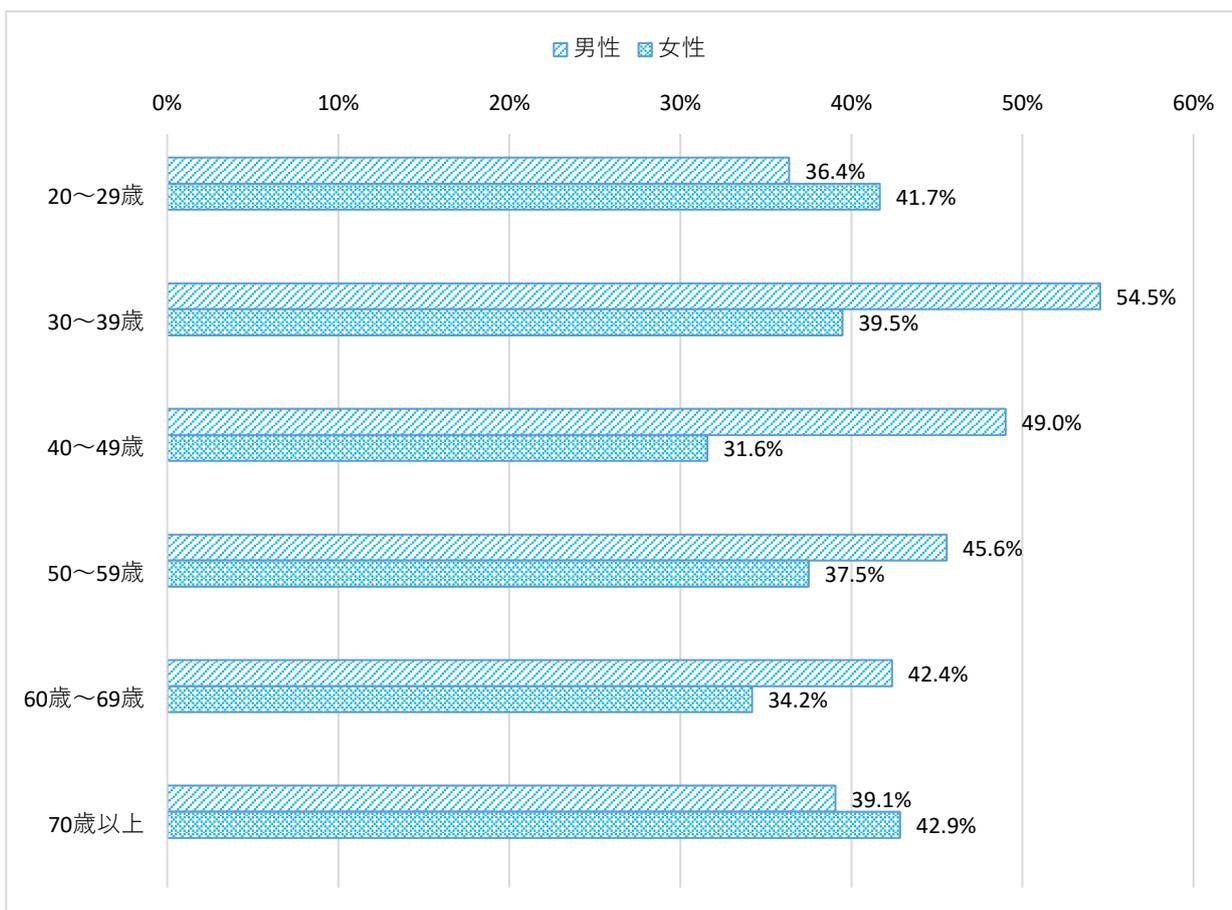
●「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせると、全体では40.7%となり、男女別では男性(43.6%)の方が女性(37.4%)より高く、年代別では30代が46.5%で最も高い。H30年度は46.8%で、6.1ポイント減少した。



問8で「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した方の内訳

●特に男性の30代（54.5%）、40代（49.0%）、50代（45.6%）の割合が高い。
 ※各年代の性別ごとの回答者数を母数とし、各年代の回答割合を算出

	男性		女性		計		回答者内訳 (人)	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	男性	女性
	20～29歳	4	36.4%	5	41.7%	9	39.1%	11
30～39歳	18	54.5%	15	39.5%	33	46.5%	33	38
40～49歳	25	49.0%	24	31.6%	49	38.6%	51	76
50～59歳	36	45.6%	36	37.5%	72	41.1%	79	96
60歳～69歳	64	42.7%	40	34.5%	104	39.1%	150	116
70歳以上	59	39.3%	36	43.4%	95	40.8%	150	83
不明					4	50.0%	4	4
計	206	43.3%	156	36.9%	366	40.7%	476	423



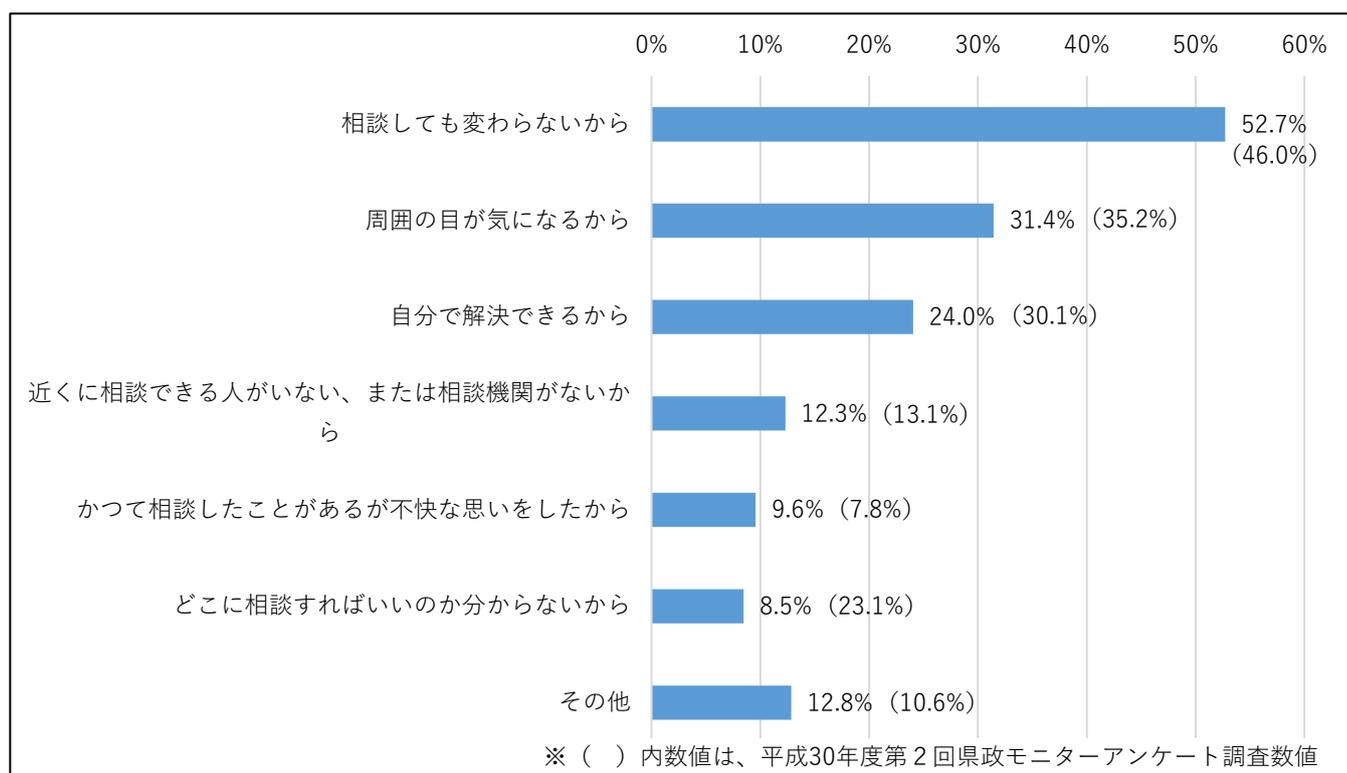
<悩みの相談にためらう理由>

「相談しても変わらないから」が5割超、「周囲の目が気になるから」が約3割

問9 問8で「そう思う」または「どちらかというと思う」を選ばれた方にお伺いします。誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるのはなぜですか。その理由について、あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	R3年度 n=366		H30年度 n=472	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
相談しても変わらないから	193	52.7%	217	46.0%
周囲の目が気になるから	115	31.4%	166	35.2%
自分で解決できるから	88	24.0%	142	30.1%
近くに相談できる人がいない、または相談機関がないから	45	12.3%	62	13.1%
かつて相談したことがあるが不快な思いをしたから	35	9.6%	37	7.8%
どこに相談すればいいのかわからないから	31	8.5%	109	23.1%
その他	47	12.8%	50	10.6%
無回答	5	1.4%	—	—

●「相談しても変わらないから」が52.7%と最も高く、次いで「周囲の目が気になるから」が31.4%、「自分で解決できるから」が24.0%と続いている。



その他の主な内容は次のとおり。

- 結局は自分で解決しなくてはいけない。
- 皆多かれ少なかれ悩みを持っている。

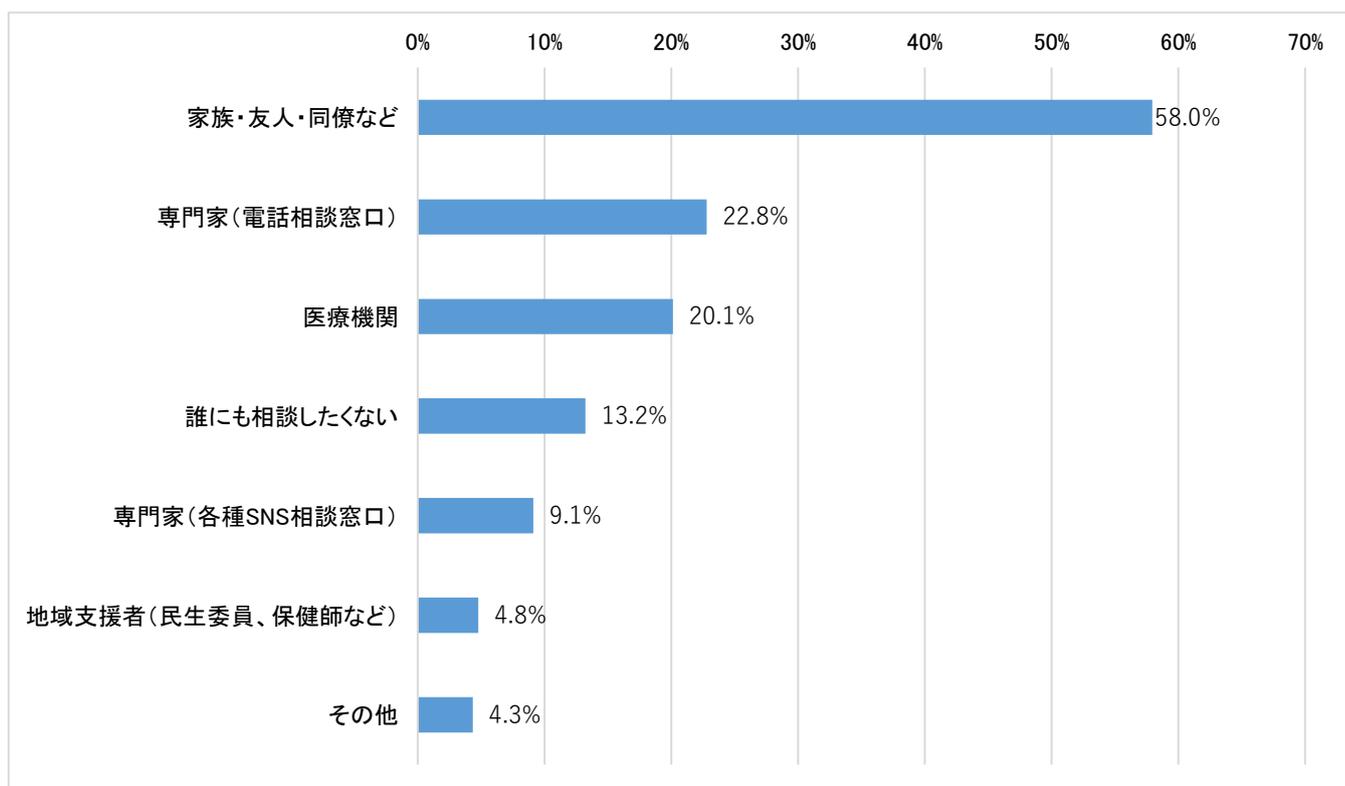
- 相談相手への遠慮、負担をかけたくない。
- 相談内容の流出や相手にどう思われるか心配。

< 「死にたい」ほどつらい時の相談相手 >
 「家族・友人・同僚など」が約6割、「誰にも相談したくない」が1割超

問10 「死にたい」ほどつらい気持ちになったとき、どのような相談相手(窓口)に相談したいと思いますか。
 該当するものに○をつけてください。(○はいくつでも)

	n=899	回答数 (人)	割合 (%)
家族・友人・同僚など		521	58.0%
専門家(電話相談窓口)		205	22.8%
医療機関		181	20.1%
誰にも相談したくない		119	13.2%
専門家(各種SNS相談窓口)		82	9.1%
地域支援者(民生委員、保健師など)		43	4.8%
その他		39	4.3%
無回答		97	10.8%

●「家族・友人・同僚など」が58.0%と最も高く、次いで「専門家(電話相談窓口)」が22.8%、「医療機関」が20.1%と続いている。



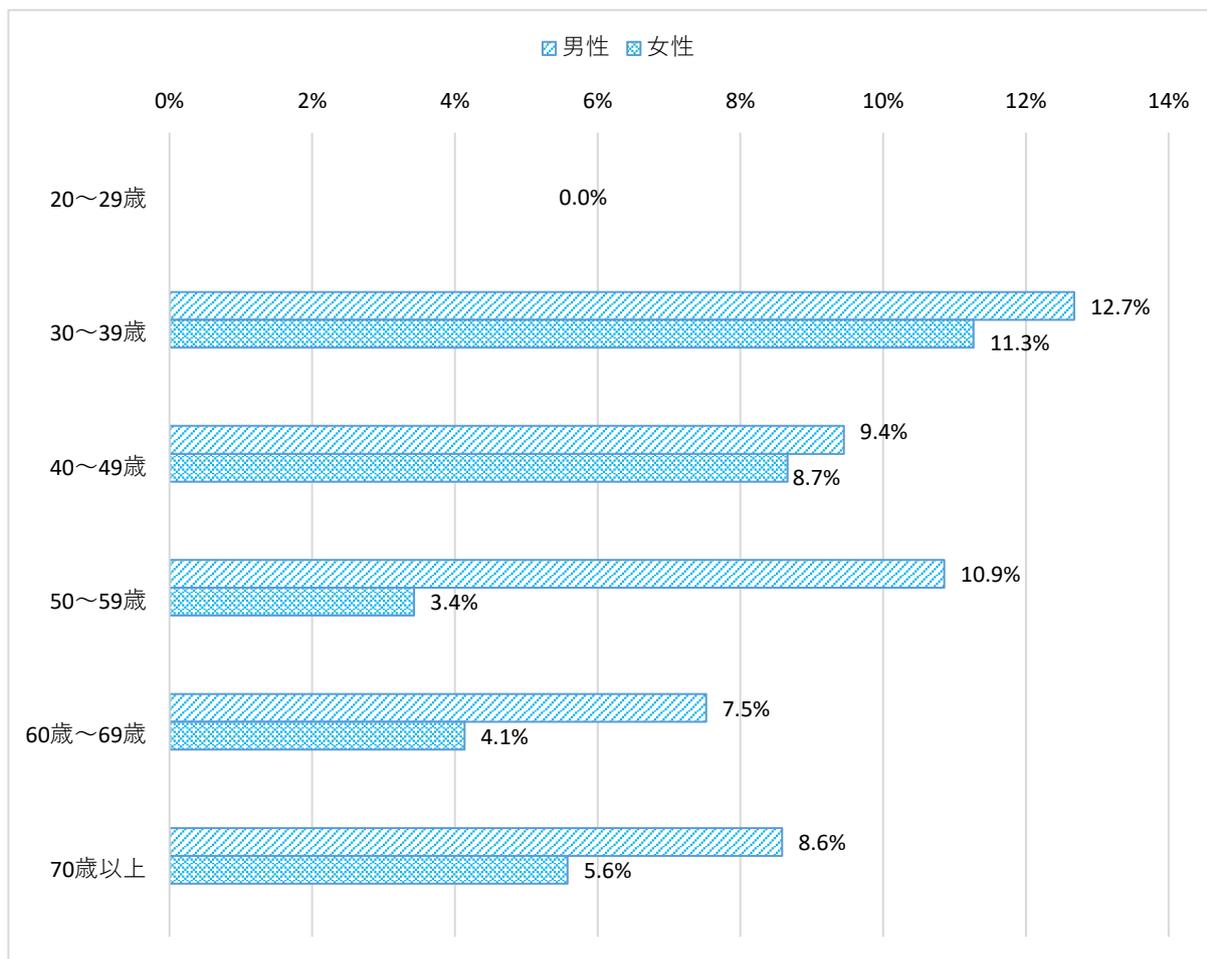
その他の主な内容は次のとおり。

- そこまで思ったことがない。
- 信頼できる人(恩師、年上の人、カウンセラーなど)
- 本で気持ちを持ち直した。

問10で「誰にも相談したくない」と回答した方の内訳

●「30～39歳」が23.9%と最も多く、全年代で男性の方が多い。
 ※各年代の回答者数を母数とし、各年代の回答割合を算出

	男性		女性		計		回答者 内訳 (人)
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	
20～29歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	23
30～39歳	9	12.7%	8	11.3%	17	23.9%	71
40～49歳	9	9.4%	11	8.7%	20	18.1%	127
50～59歳	12	10.9%	6	3.4%	18	14.3%	175
60歳～69歳	19	7.5%	11	4.1%	30	11.7%	266
70歳以上	20	8.6%	13	5.6%	33	14.2%	233
不明					1	25.0%	4
計	69		49		119	13.2%	899



<いつもと様子が違う人に普段から実施していること>

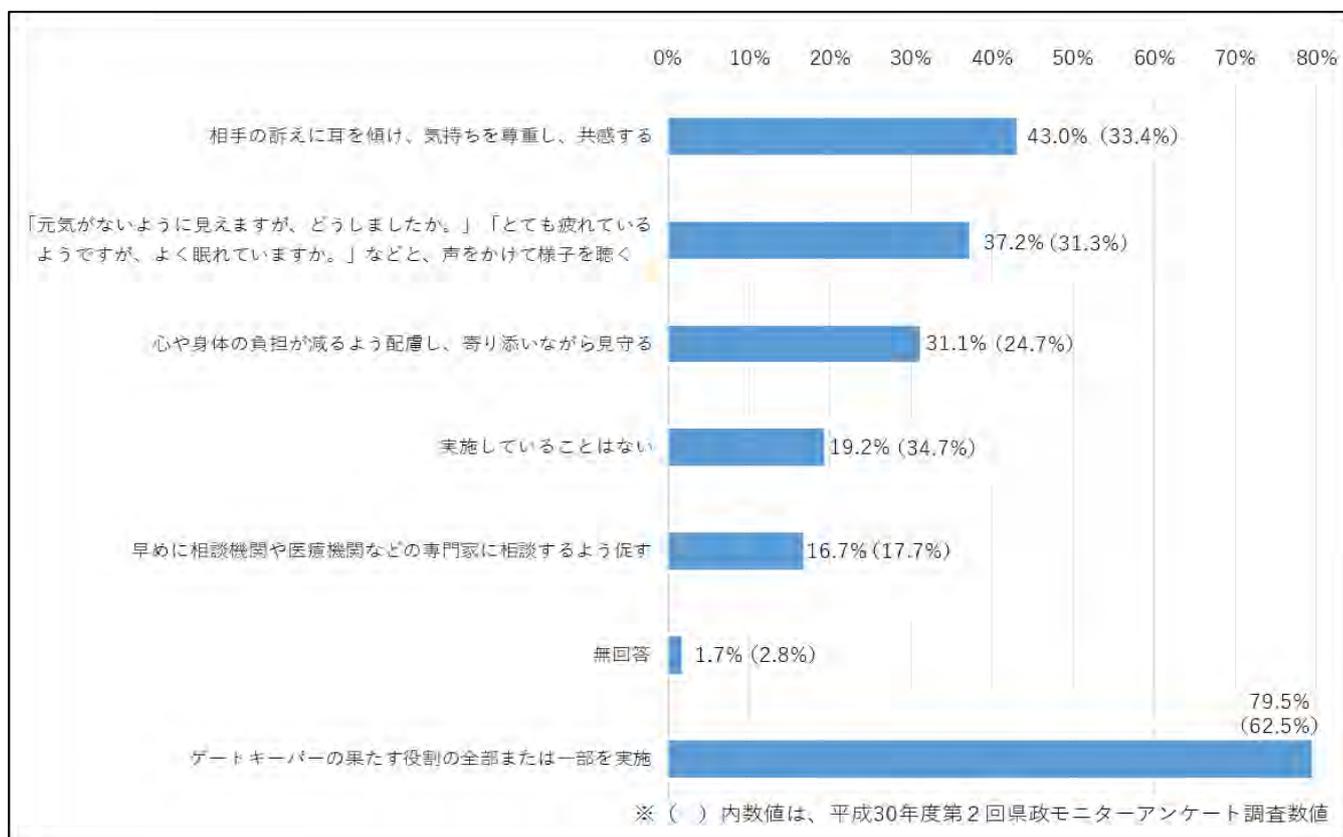
「相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する」が4割超、ゲートキーパーの果たす役割の全部または一部を実施している割合は約8割

問11 「表情が暗い」「元気がない」など、いつもと様子が違う人に対して、普段から実施していることはありますか。(〇はいくつでも)

	R3年度 n=899		H30年度 n=1,008	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する	387	43.0%	337	33.4%
「元気がないように見えますが、どうしましたか。」「とても疲れているようですが、よく眠れていますか。」などと、声をかけて様子を聴く	334	37.2%	315	31.3%
心や身体の負担が減るよう配慮し、寄り添いながら見守る	280	31.1%	249	24.7%
実施していることはない	173	19.2%	350	34.7%
早めに相談機関や医療機関などの専門家に相談するよう促す	150	16.7%	178	17.7%
無回答	15	1.7%	28	2.8%
※ゲートキーパーの果たす役割(上記①～④)の全部または一部を実施	715	79.5%	630	62.5%

●『相手の訴えに耳を傾け、気持ちを尊重し、共感する』が43.0%と最も高く、次いで『「元気がないように見えますが、どうしましたか。」「とても疲れているようですが、よく眠れていますか。」などと、声をかけて様子を聴く』が37.2%と続いている。

前回と比較し、ゲートキーパーの果たす役割の全部または一部実施している割合が17ポイント増加し79.5%となった。



《人生二毛作社会について》

<「人生二毛作社会」という表現>

「退職したシニアの第二の人生」の「そう思う」と「少しはそう思う」が合わせて6割超

問12 「人生二毛作社会」という表現をどのように感じますか。①から③のそれぞれについて、該当する番号に○をつけてください。(○はそれぞれひとつ)

	回答数(人)						割合(%)					
	そう思う	少しはそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	少しはそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
① 退職したシニアの第二の人生	337	256	116	95	75	20	37.5	28.5	12.9	10.6	8.3	2.2
② 高齢者を対象とした社会	187	245	228	136	74	29	20.8	27.3	25.4	15.1	8.2	3.2
③ 「人生二毛作社会」のイメージが湧かない	221	177	168	183	122	28	24.6	19.7	18.7	20.4	13.6	3.1
その他	122						13.6					

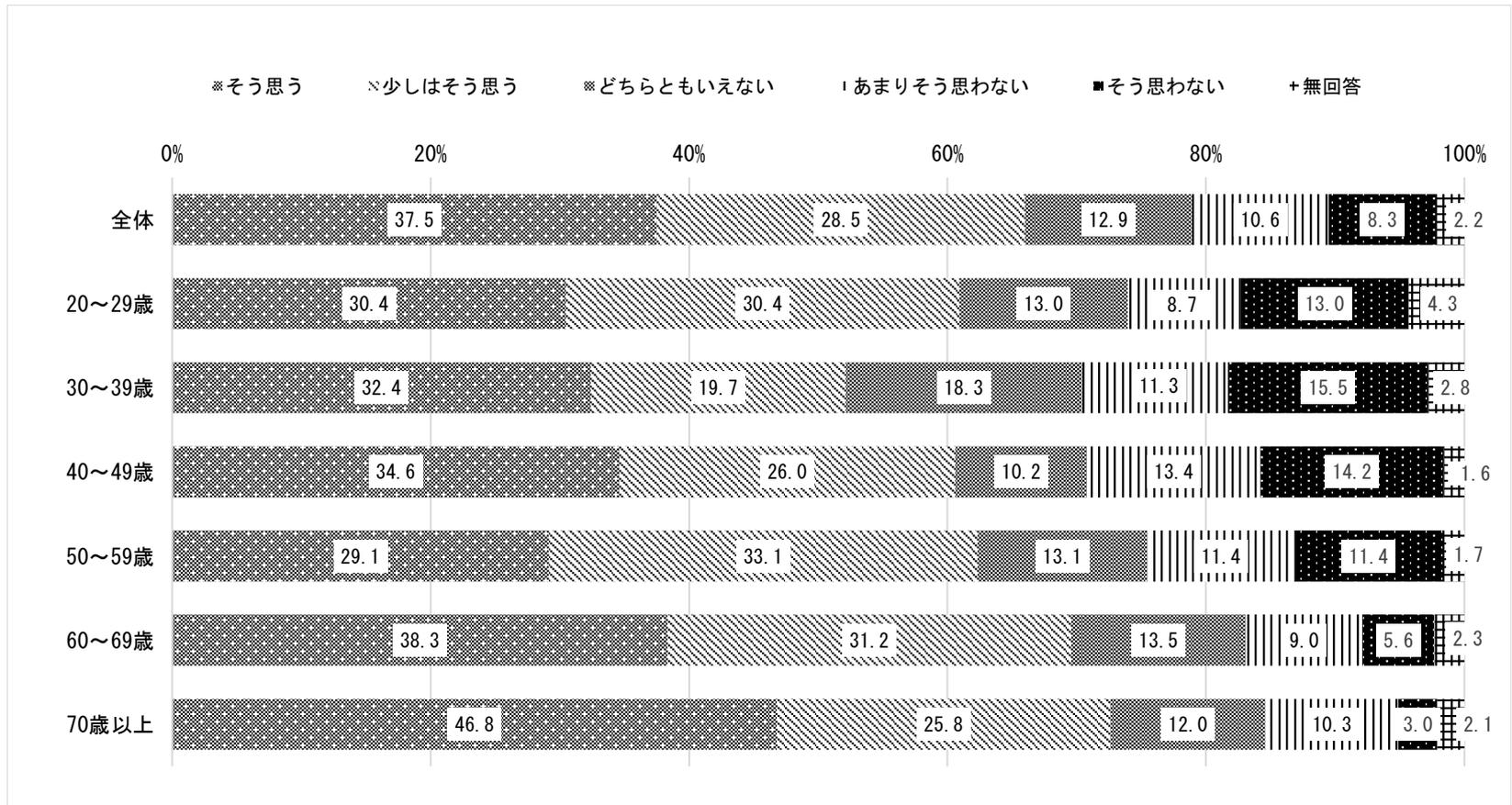
その他の主な内容は以下のとおり（抜粋）

- マルチステージを生きる時代、多様性を制限する表現に感じる。
- 退職を区切りに考えるのは、正しいアプローチであるか。
- 副業を推進する社会と勘違いしてしまいそう。
- ポジティブなイメージとなる表現が良い。

また、「イメージが湧かない」、「表現が分かりにくい」、「ふさわしい表現にした方が良い」との意見が多数あった。

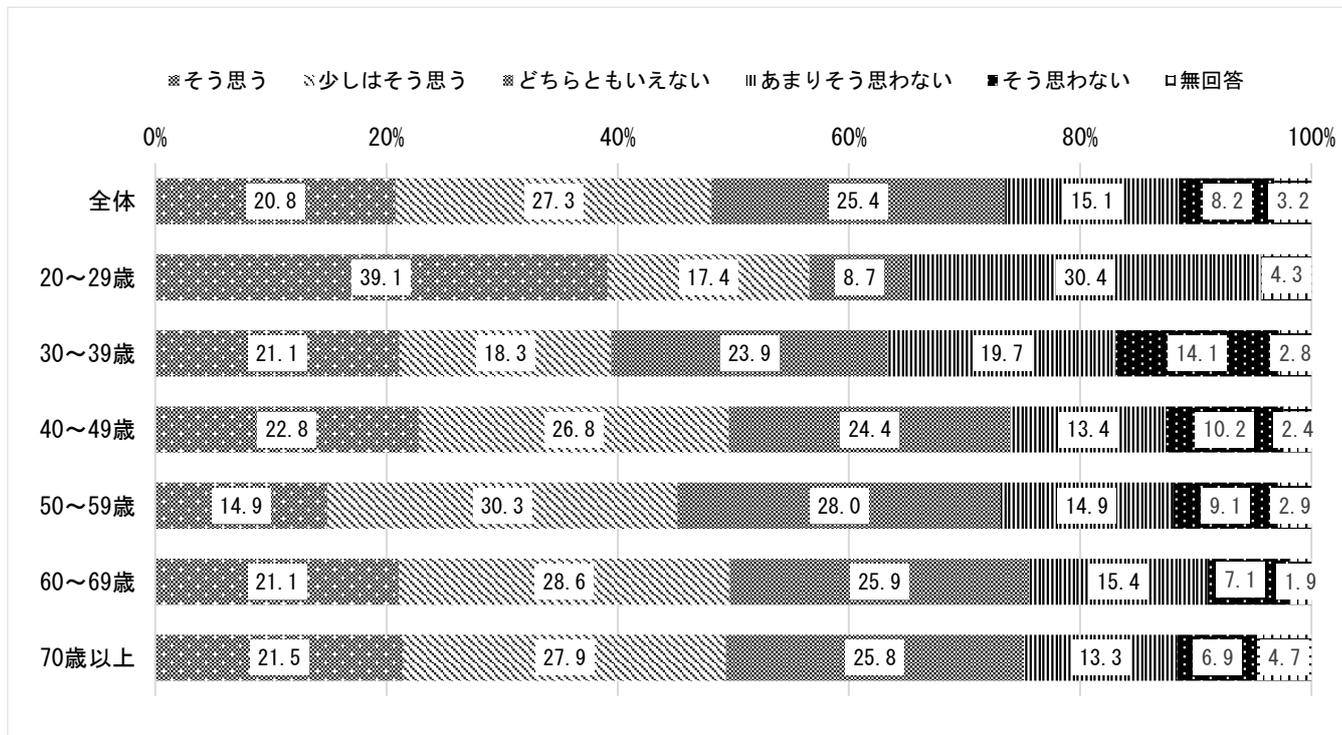
● 「退職したシニアの第二の人生」の「そう思う」、「少しはそう思う」の合算は、年代別では、70代以上が72.6%と最も高く、次に60代（69.5%）、50代（62.2%）となっている。

① 退職したシニアの第二の人生



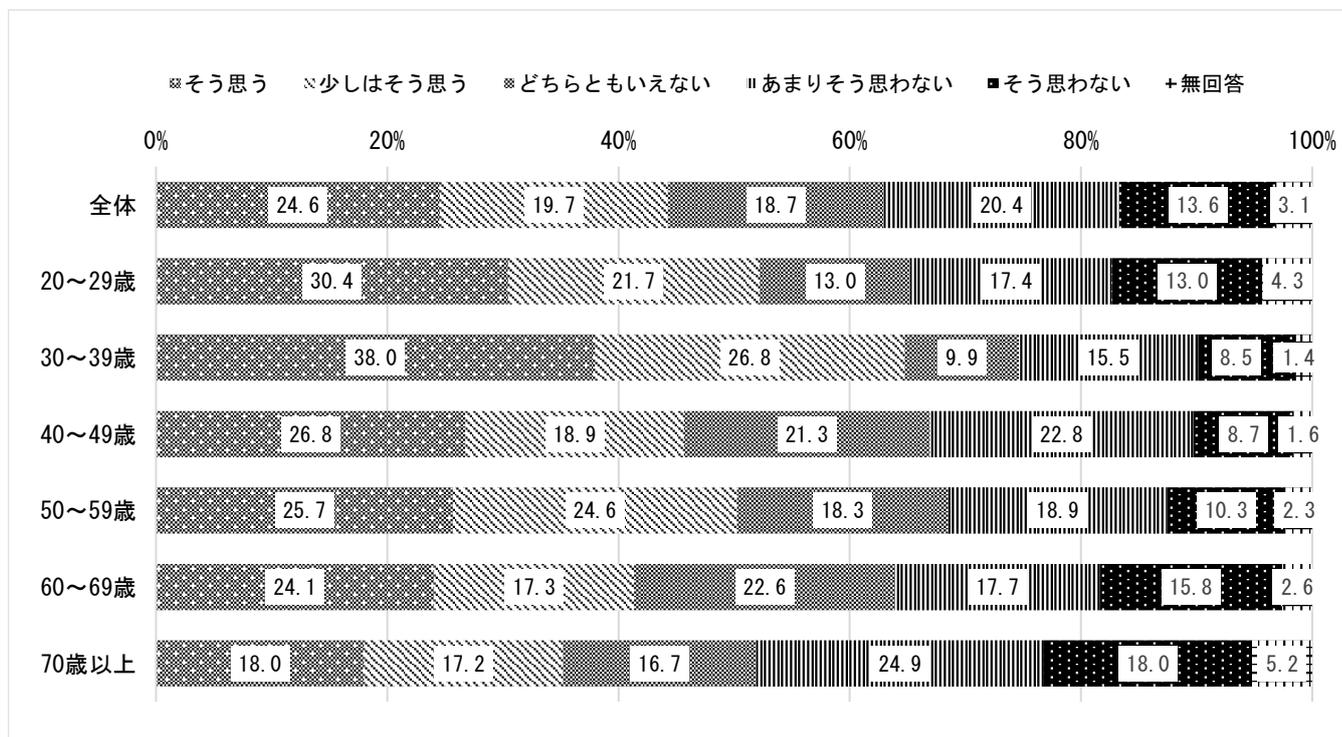
●「高齢者を対象とした社会（若者や中高年者の関わりが薄い）」の「そう思う」、「少しはそう思う」の合算は、年代別では、20代が56.5%と最も高く、次に60代（49.7%）、40代（49.6%）、70代以上（49.4%）となっている。

② 高齢者を対象とした社会（若者や中高年者の関わりが薄い）



●「「人生二毛作社会」のイメージが湧かない」の「そう思う」、「少しはそう思う」の合算は、年代別では、30代が64.8%と最も高く、次に20代（52.1%）となっている。

③ 「人生二毛作社会」のイメージが湧かない

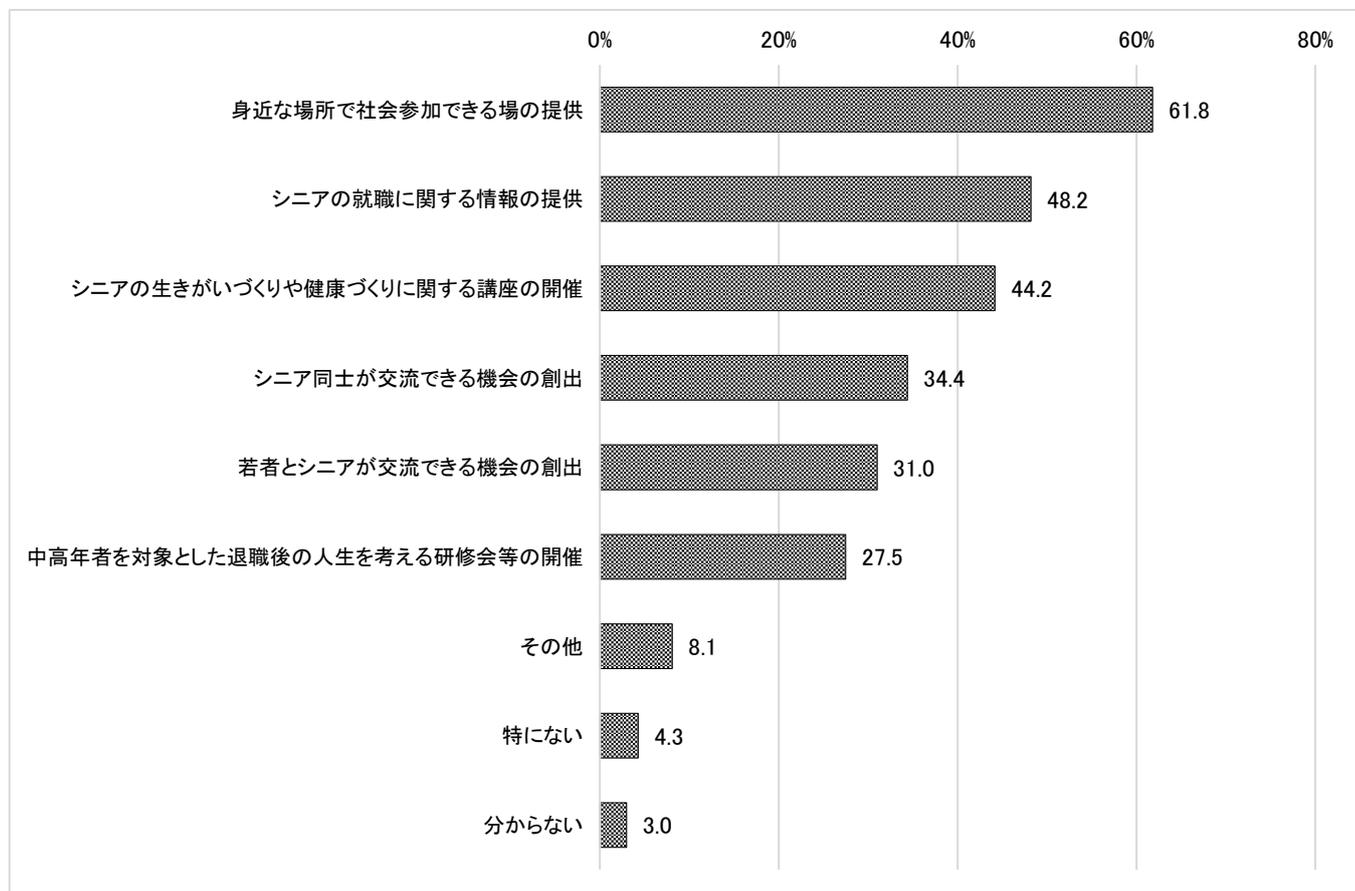


＜シニアが生きがいを持って暮らすために力を入れるべき取組＞
 「身近な場所で社会参加できる場の提供」が約6割

問13 人生100年時代を迎えて、シニアが自分らしく生きがいを持って暮らすためには、県としてどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

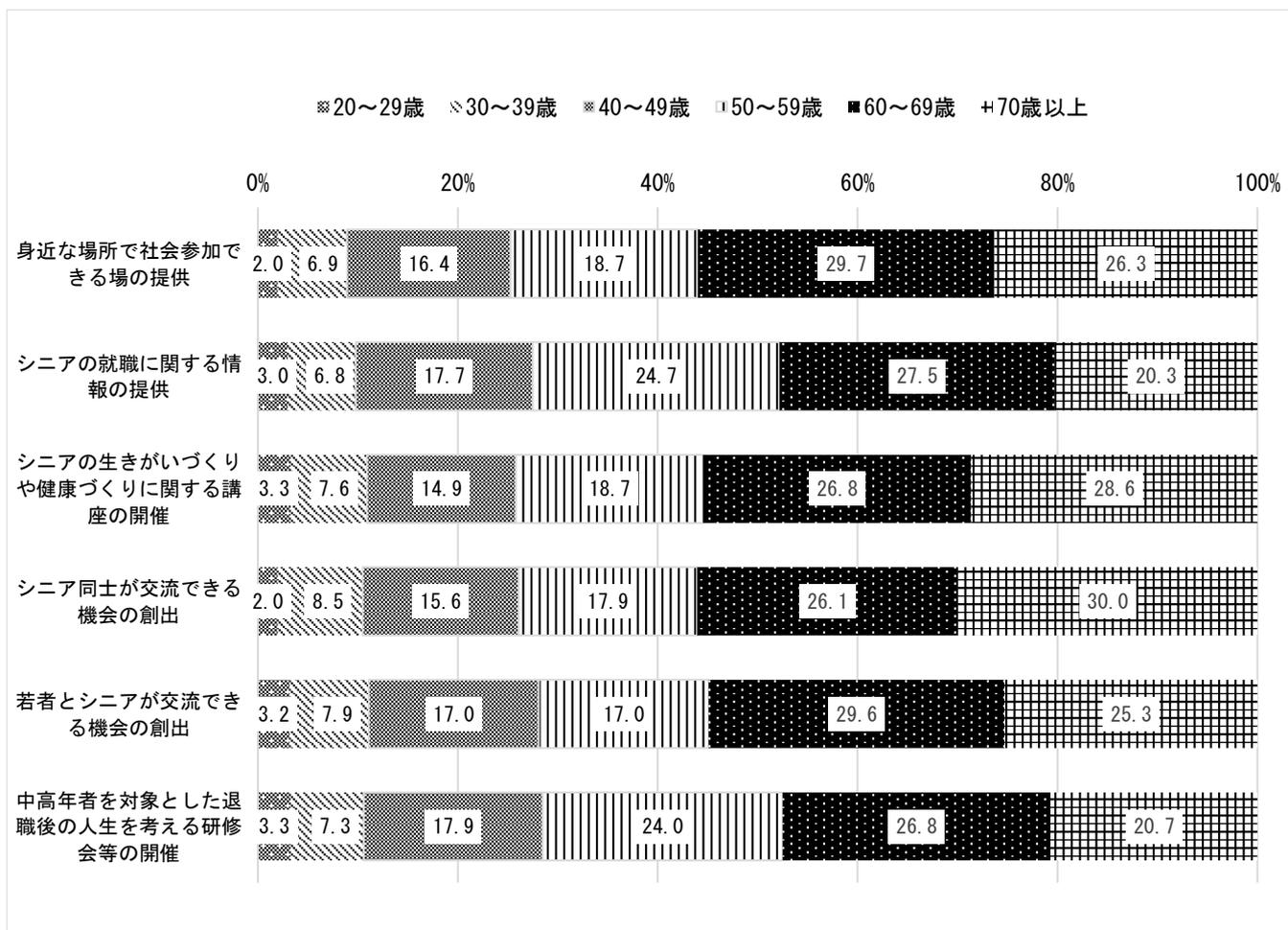
	回答数 (人)	割合 (%)
n=899		
① 身近な場所で社会参加できる場の提供	556	61.8
② シニアの就職に関する情報の提供	433	48.2
③ シニアの生きがいづくりや健康づくりに関する講座の開催	397	44.2
④ シニア同士が交流できる機会の創出	309	34.4
⑤ 若者とシニアが交流できる機会の創出	279	31.0
⑥ 中高年者を対象とした退職後の人生を考える研修会等の開催	247	27.5
⑦ その他	73	8.1
⑧ 特にない	39	4.3
⑨ 分からない	27	3.0

● 「身近な場所で社会参加できる場の提供」が61.8%と最も高く、次に「シニアの就職に関する情報提供」(48.2%)、「シニアの生きがいづくりや健康づくりに関する講座の開催」(44.2%)となっている。



⑦ その他の主な意見は以下のとおり（抜粋）

- シニアがいられる場を提供してほしい。
- シニアという言葉で区別せず、ボーダーレスで社会参加できるスタイルの推進。
- 若者、中高年の代から交流や社会参加をしていく仕組みづくりが必要。
- 退職してから始めるのではなく、もっと早いうちから意識を持ってもらいたい。



《道路整備等について》

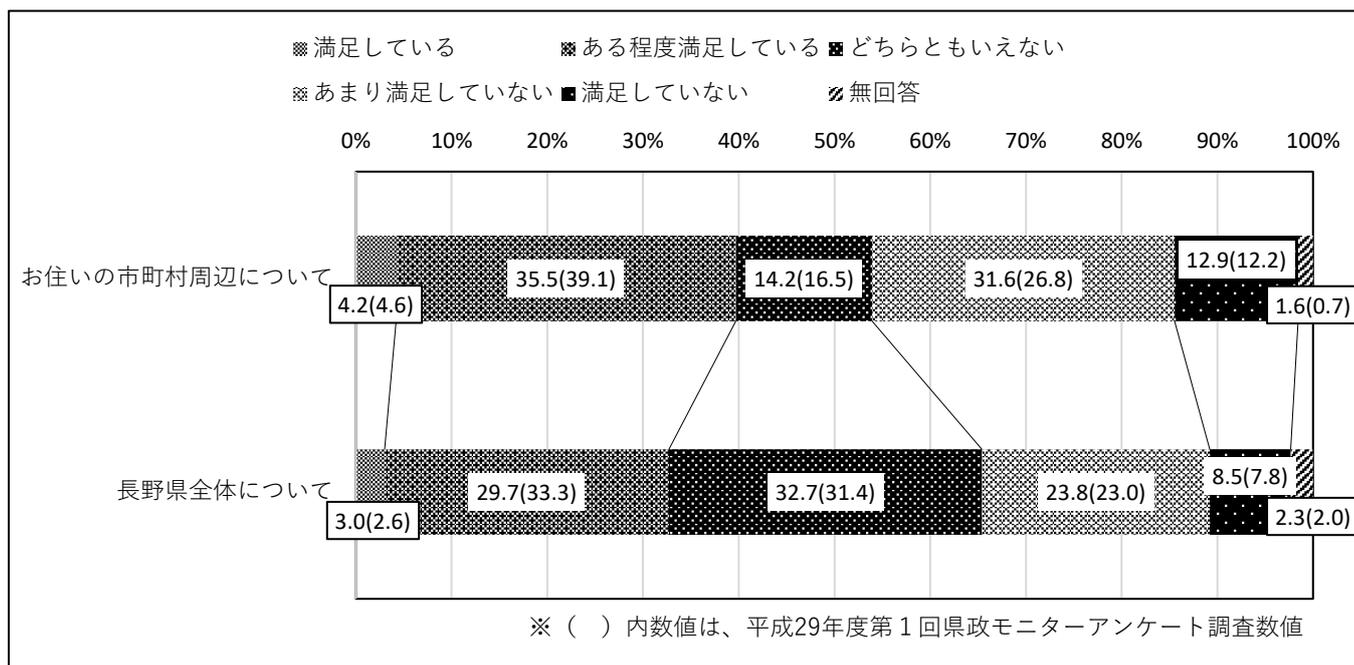
＜道路整備状況の満足度＞

「お住まいの市町村周辺について」では、「満足している」「ある程度満足している」が合わせて約4割

問14 現在の道路整備状況について満足していますか。(〇はそれぞれ1つ)

	R3年度 n=899 お住まいの市町村 周辺について		R3年度 n=899 長野県全体 について		H29年度 n=992 お住まいの市町村 周辺について		H29年度 n=992 長野県全体 について	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
満足している	38	4.2	27	3.0	46	4.6	26	2.6
ある程度満足している	319	35.5	267	29.7	388	39.1	330	33.3
どちらとも言えない	128	14.2	294	32.7	164	16.5	311	31.4
あまり満足していない	284	31.6	214	23.8	266	26.8	228	23.0
満足していない	116	12.9	76	8.5	121	12.2	77	7.8
無回答	14	1.6	21	2.3	7	0.7	20	2.0

●「お住まいの市町村周辺について」では、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせて39.7%、「満足していない」と「あまり満足していない」を合わせて44.5%となっている。



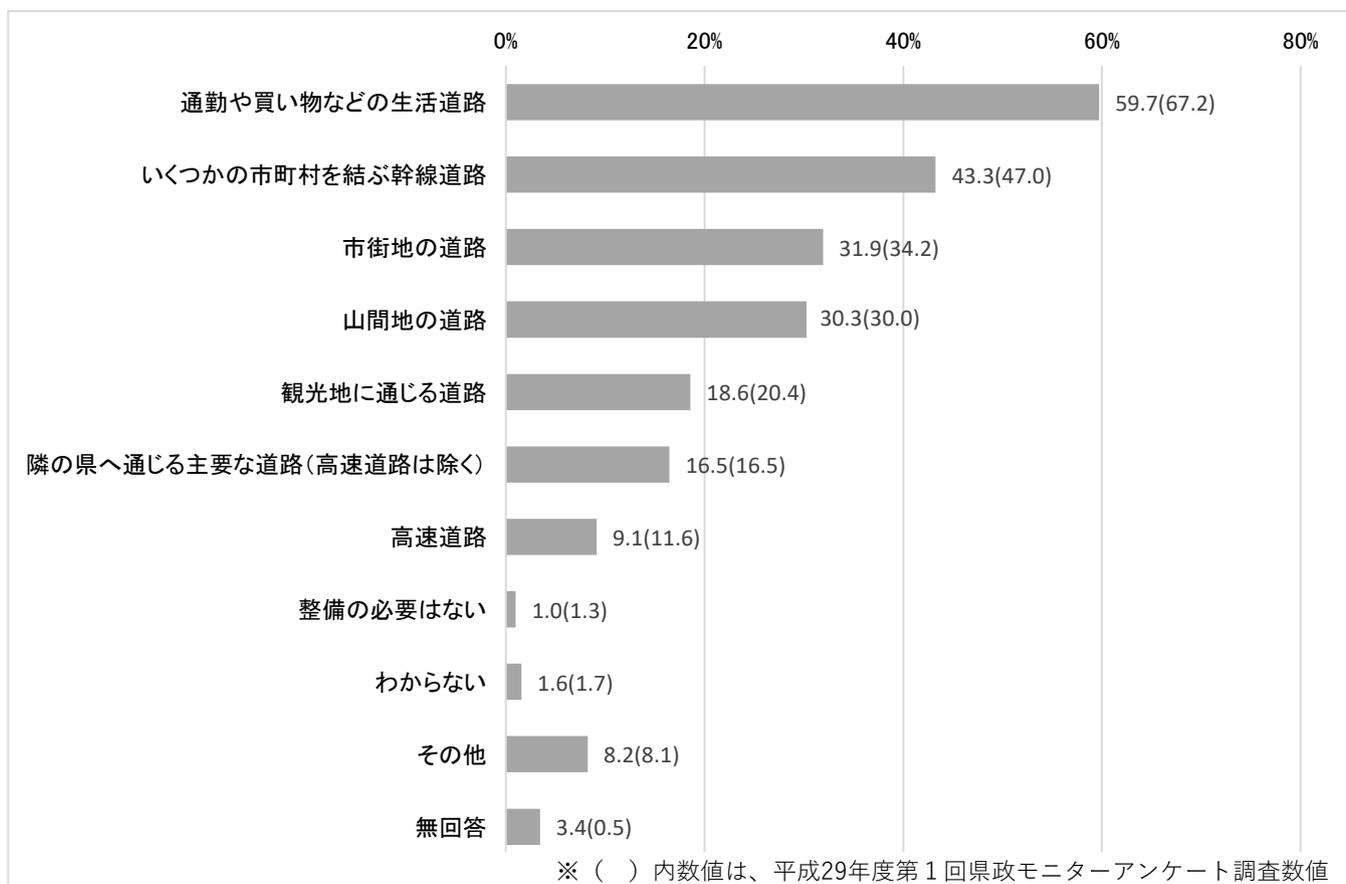
<優先して整備すべき道路>

「通勤や買い物などの生活道路」が6割弱、「いくつかの市町村を結ぶ幹線道路」が4割強

問15 今後どのような道路を優先して整備すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

	R3年度 n=899		H29年度 n=992	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
通勤や買い物などの生活道路	537	59.7	667	67.2
いくつかの市町村を結ぶ幹線道路	389	43.3	466	47.0
市街地の道路	287	31.9	339	34.2
山間地の道路	272	30.3	298	30.0
観光地に通じる道路	167	18.6	202	20.4
隣の県へ通じる主要な道路(高速道路は除く)	148	16.5	164	16.5
高速道路	82	9.1	115	11.6
整備の必要はない	9	1.0	13	1.3
わからない	14	1.6	17	1.7
その他	74	8.2	80	8.1
無回答	31	3.4	5	0.5

●「通勤や買い物などの生活道路」が59.7%と最も高く、次いで「いくつかの市町村を結ぶ幹線道路」(43.3%)、「市街地の道路」(31.9%)となっている。



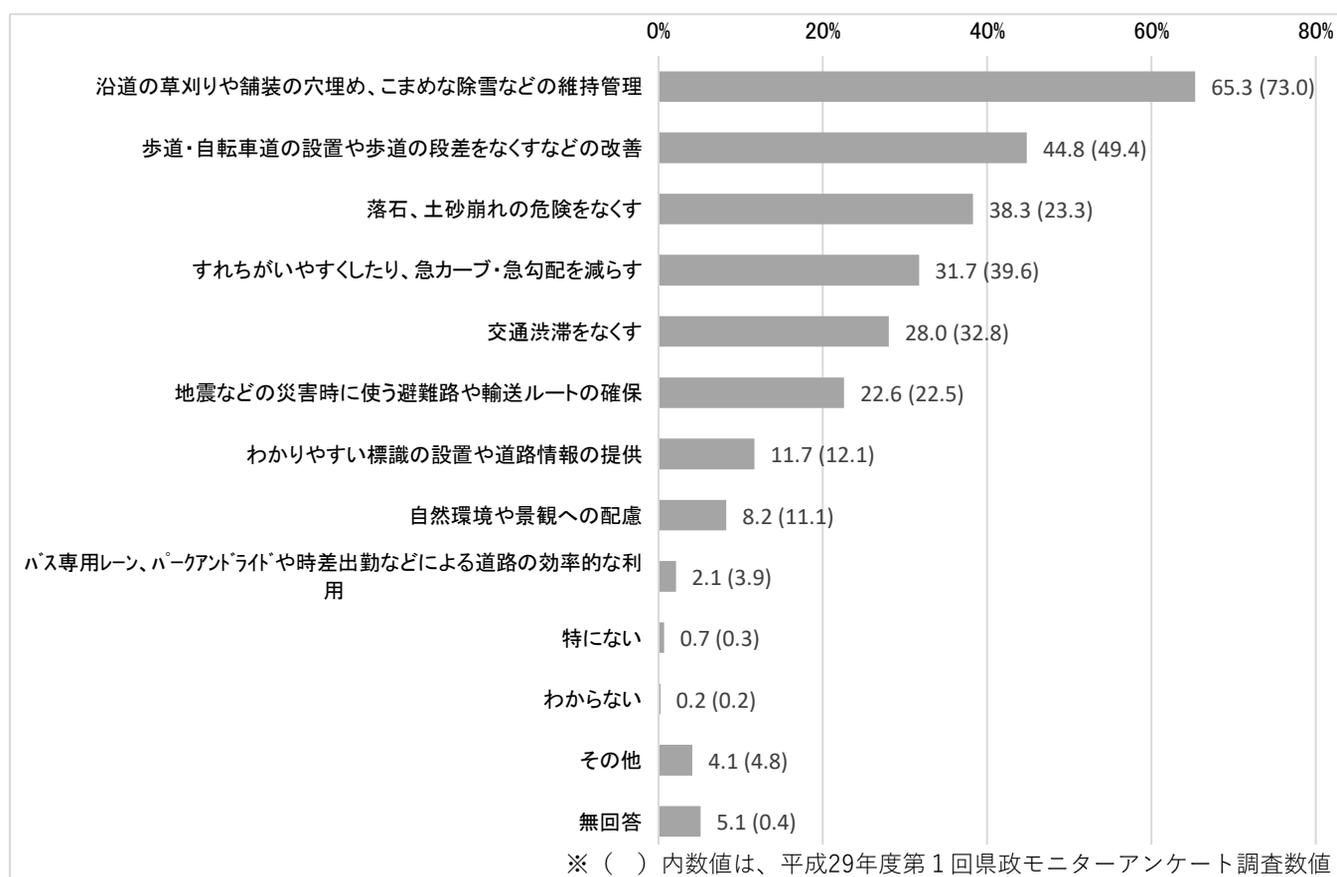
その他としては、「通学路」、「自転車道」等の回答が見られた。

<道路対策の優先度>
「沿道の草刈りや舗装の穴埋め、こまめな除雪などの維持管理」が6割超、「歩道・自転車道の設置や歩道の段差をなくすなどの改善」が4割超

問16 日常利用している県内の道路について、どんな対策を優先的に進めるべきだと思いますか。
 (〇は3つまで)

	R3年度 n=899		H29年度 n=992	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
沿道の草刈りや舗装の穴埋め、こまめな除雪などの維持管理	587	65.3	724	73.0
歩道・自転車道の設置や歩道の段差をなくすなどの改善	403	44.8	490	49.4
落石、土砂崩れの危険をなくす	344	38.3	231	23.3
すれちがいやすしたり、急カーブ・急勾配を減らす	285	31.7	393	39.6
交通渋滞をなくす	252	28.0	325	32.8
地震などの災害時に使う避難路や輸送ルートの確保	203	22.6	223	22.5
わかりやすい標識の設置や道路情報の提供	105	11.7	120	12.1
自然環境や景観への配慮	74	8.2	110	11.1
バス専用レーン、パークアンドライドや時差出勤などによる道路の効率的な利用	19	2.1	39	3.9
特にない	6	0.7	3	0.3
わからない	2	0.2	2	0.2
その他	37	4.1	48	4.8
無回答	46	5.1	4	0.4

●「沿道の草刈りや舗装の穴埋め、こまめな除雪などの維持管理」が65.3%と最も高く、次いで「歩道・自転車道の設置や歩道の段差をなくすなどの改善」(44.8%)、「すれちがいやすしたり、急カーブ・急勾配を減らす」(38.3%)が高い割合となっている。



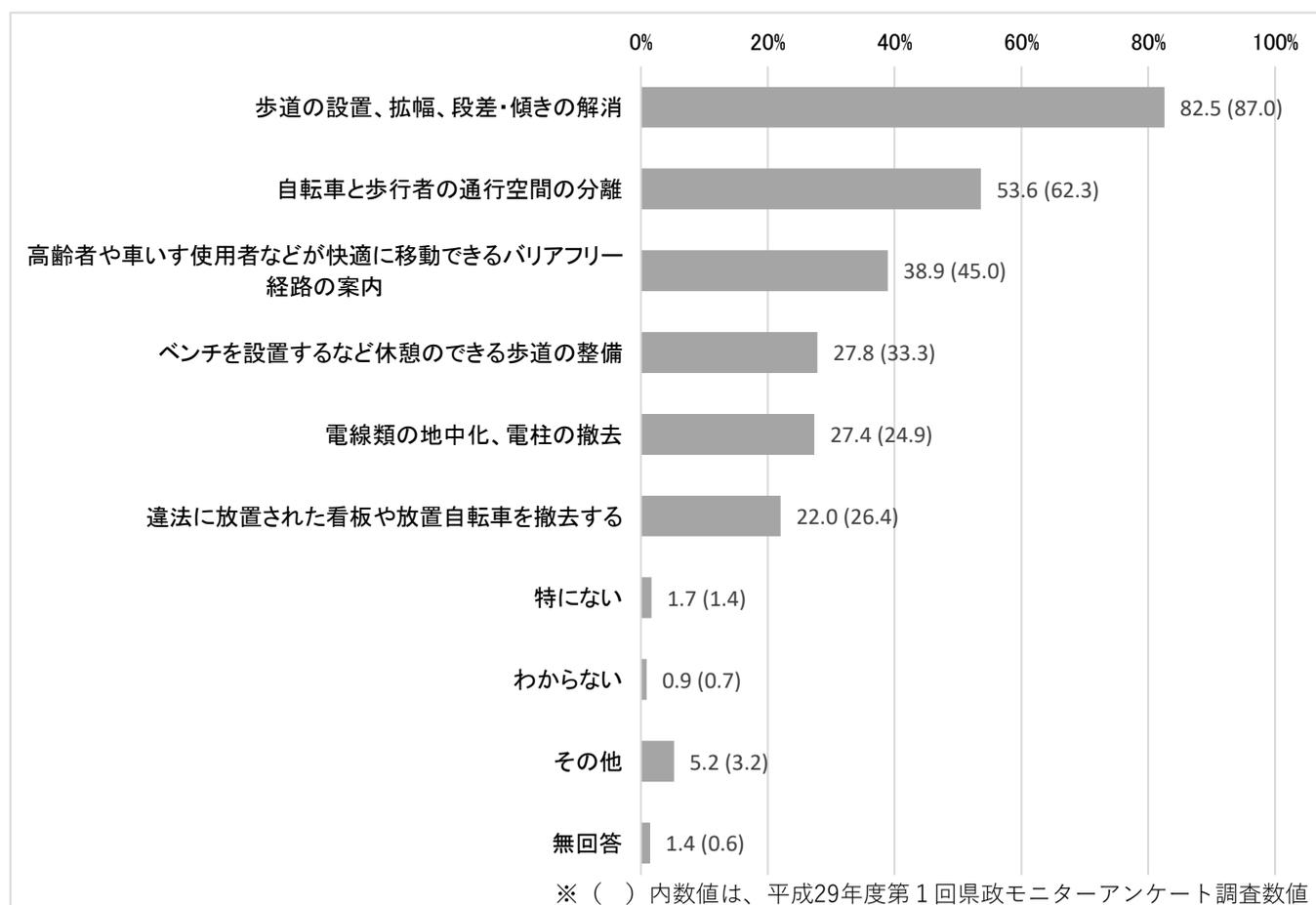
その他としては、「通学路の整備」、「右折レーンの設置」等の回答が見られた。

＜高齢歩行者への配慮に必要な道路整備＞
 「歩道の設置、拡幅、段差・傾きの解消」が約8割、「自転車と歩行者の通行空間の分離」が5割超

問17 高齢歩行者などに対する配慮として、歩行者の立場からどのような道路整備が必要だと思いますか。
 (〇はいくつでも)

	R3年度 n=899		H29年度 n=992	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
歩道の設置、拡幅、段差・傾きの解消	742	82.5	863	87.0
自転車と歩行者の通行空間の分離	482	53.6	618	62.3
高齢者や車いす使用者などが快適に移動できるバリアフリー経路の案内	350	38.9	446	45.0
ベンチを設置するなど休憩のできる歩道の整備	250	27.8	330	33.3
電線類の地中化、電柱の撤去	246	27.4	247	24.9
違法に放置された看板や放置自転車を撤去する	198	22.0	262	26.4
特にない	15	1.7	14	1.4
わからない	8	0.9	7	0.7
その他	47	5.2	32	3.2
無回答	13	1.4	6	0.6

●「歩道の設置、拡幅、段差・傾きの解消」が82.5%と最も高く、次いで「自転車と歩行者の通行空間の分離」(53.6%)、「高齢者や車いす使用者などが快適に移動できるバリアフリー経路の案内」(38.9%)となっている。



その他としては、「自動車の速度抑制対策」、「シニアカーなど個人の高齢者の移動が可能な環境

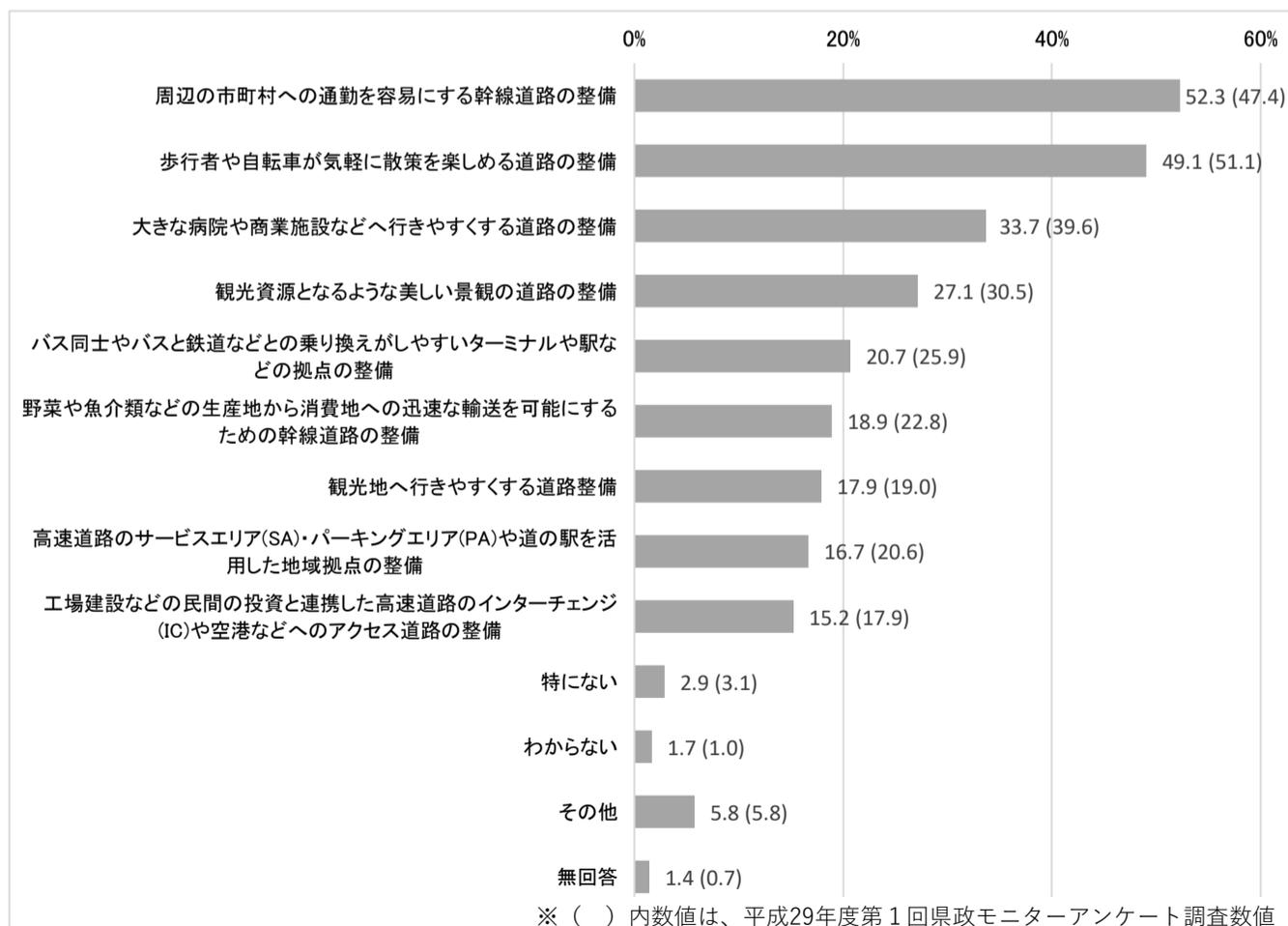
<地域活性化に必要な道路整備>

「歩行者や自転車が気軽に散策を楽しめる道路の整備」、「周辺の市町村への通勤を容易にする幹線道路の整備」が約5割

問18 お住まいの地域が活性化するために、道路整備の面からどのような対策が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

	R3年度 n=899		H29年度 n=992	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
周辺の市町村への通勤を容易にする幹線道路の整備	470	52.3	470	47.4
歩行者や自転車が気軽に散策を楽しめる道路の整備	441	49.1	507	51.1
大きな病院や商業施設などへ行きやすくする道路の整備	303	33.7	393	39.6
観光資源となるような美しい景観の道路の整備	244	27.1	303	30.5
バス同士やバスと鉄道などとの乗り換えがしやすいターミナルや駅などの拠点の整備	186	20.7	257	25.9
野菜や魚介類などの生産地から消費地への迅速な輸送を可能にするための幹線道路の整備	170	18.9	226	22.8
観光地へ行きやすくする道路整備	161	17.9	188	19.0
高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)や道の駅を活用した地域拠点の整備	150	16.7	204	20.6
工場建設などの民間の投資と連携した高速道路のインターチェンジ(IC)や空港などへのアクセス道路の整備	137	15.2	178	17.9
特にない	26	2.9	31	3.1
わからない	15	1.7	10	1.0
その他	52	5.8	58	5.8
無回答	13	1.4	7	0.7

●「周辺の市町村への通勤を容易にする幹線道路の整備」が52.3%と最も高く、次いで「歩行者や自転車が気軽に散策を楽しめる道路の整備」(49.1%)、「大きな病院や商業施設などへ行きやすくする道路の整備」(33.7%)となっている。



その他としては、「ラウンドアバウトの普及」、「道路の維持管理」等の回答が見られた。

<大地震や大雨などの自然災害時における道路網分断の不安感>
「不安がある」「やや不安がある」が合わせて6割超

問19 大地震や大雨などによる災害が発生した場合、お住まいの近くにある道路について崩落や浸水による道路網分断等の不安を感じますか。(○は1つ)

	R3年度 n= 899		H29年度 n=992	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
不安がある	281	31.3	294	29.6
やや不安がある	307	34.1	353	35.6
あまり不安はない	224	24.9	265	26.7
不安はない	68	7.6	59	5.9
わからない	5	0.6	15	1.5
無回答	14	1.6	6	0.6

●「不安がある」と「やや不安がある」を合わせた割合は65.4%、地域別では、南信が71.3%と最も高く、次いで北信(66.8%)、中信(64.6%)、東信(53.8%)となっている。

